

靖国神社みたま祭

会員金文男氏献納の雪洞

報 特 攻

平成15年8月

第56号

〒105-0001 東京都港区
虎ノ門3-6-8 第6森ビル
財団法人 特攻隊戦没者
慰霊平和祈念協会
電話 03(3432)1090
FAX 03(3432)5567

編集人 田中賢一
発行人 菅原道

誠第三十七隊

小林俊雄少尉の遺詠

(20年4月6日新田原発進散華)

死出の道と知りても母は笑顔にて
送りてくれぬ我くにを去る日

醜の吾特攻隊長の命押しぬ

必ずや必ずや成さざらめやも

せまり行く生命を思ひひもすがら

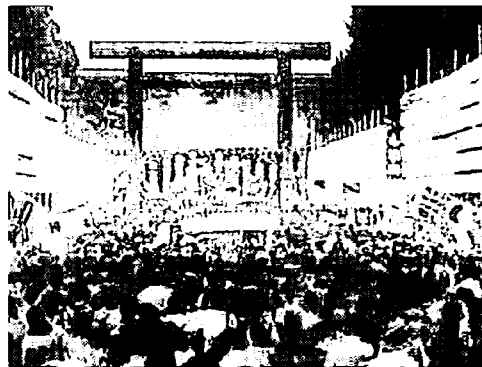
机に向かい航法計画を立つ

すつるべき生命にあれど猶而し

借しみて遂に究め得ざりき

本人の遺稿が残っており、この歌につづいてつぎの通り認めてある。帰らざる吾子を送った少しも悲しみもせじ有難き母 育みし二十五年を一時に想はむとする母の眼色 特攻隊と知りても而も微動だにせざりし母は嗚呼有難し 広き広きホームに立ちて見送るは母と妹と友一人

当協会発行の「特攻隊員遺詠集」にこの歌を「死出の旅」となっているのは誤りにつき訂正する。



みたま祭は毎年7月13日から16日

靖国神社みたま祭の由来

終戦の年の11月20日、政府は靖国神社臨時大祭を行い、天皇陛下の行幸を仰ぎ英霊に対し戦火の終熄を報告し、併せて未だ合祀されていない戦死者の合祀手続を速に行うことを期した。ところがそれから一ヶ月もたたぬ時に、占領軍から所謂「神道指令」なるものが発せられ、靖国神社は國の手から離れ一宗教法人にさせられ、天皇陛下の御親拝も不可能になった。「神道指令」など独立回復後消滅したのであるが未だにその呪縛から脱しられないのはどうしたことが。

目次

靖国神社みたま祭	1
宇垣纏最後の特攻	2
名古屋飛行学校の思い出	6
大西瀧治郎の遺書	8
安井少尉の日章旗帰る	9
特攻観音堂補修費寄付お願い	9
野崎慶三氏を偲ぶ	10
戦艦大和以下特攻艦隊の碑	11
第一挺進団の天覧演習	12
知賢特攻基地慰霊祭関連	14
回天に沈められた米艦の戦友会	24
殉国沖繩学徒五十八年祭	26
協会頒布図書のお知らせ	31
(慰霊祭) 陸軍航空隊前祭18、都城 特攻慰霊祭19、陸軍挺進部隊慰霊祭20、 義烈空挺隊陣前祭21	31
(断片記事) 八月十五日靖国神社5、 事務局お知らせ17、文芸欄20、靖国神 社特攻慰霊祭の歌25、靖国神社社頭の 掲示30、特攻会報編集の主眼32	32

それはさて置き、翌21年7月、陛下の行幸が仰げず、政府も為すところないならば自分達だけでやらうと、長野県遺族会の有志の人々が上京し、境内で盆踊り繰り広げ御霊をお慰めした。これを契機として翌22年から神社が主催して、現在のような「みたま祭」が行はれるようになった。

宇垣纏の戦藻録に見る 最後の特攻ほか

第五航空艦隊司令官宇垣纏中将は終戦の詔勅を拝したのち中津大尉以下八名を率い、彗星七機に搭乗し大分基地を出撃、特攻散華した。

田中 賢一

このことについては、大命に背いたとか、特攻散華した部下に殉ずるならば、大西滝治郎中将のように自決すればよいのに、前途有為な部下を道連れにしたのは不可であるとか、議論がある。しかし歴史を見るには一応その当時の環境に立って観察しなければならぬ。ことの可否は暫らく措くとし、五航艦が三月中旬から沖縄方面に投入した航空特攻は、一〇〇五機一九八一名に達している。

宇垣中将には戦藻録という日記が残されている。これには昭和十六年十月十六日から終戦の日まで毎日書かれている。同中将(当時は少将)は十六年八月聯合艦隊参謀長に補せられているが、戦藻録が如何なるものか、はしがきの一部を引用してみる。

「中央を離れての海上勤務なれば、枢要の機務は分らぬが、茲に至らしめた責任の多い過去と謂ひ、帝国の安危を

担当する聯合艦隊の参謀長としての現在と謂ひ、公文とならぬ公務上の事も、所見感想等個人的な事も一切構はず、その日その日にまかせて書き綴る事はある。従つて本日誌はこれを戦の屠籠、『戦藻録』と命名するのが適當であらう」と

さて、ここで戦藻録の関心深い部分を転載するか、先ず終戦時の事から。なお、ここに引用するのは昭和五十二年原書房から出版された同名の書物であり、編集者は明記されていないが、冒頭に「増補にあたりて」という兵学校同期生寺岡謹平の一文があるので、寺岡中将が編集者であると思う。



文中の符号

CR 海軍総隊
AF 航空艦隊
KAB 機動部隊

最後の決意

八月十一日 土曜日 晴

朝食後より警戒警報かゝり終日うるさく一部は本方面を攻撃せり。昨日關東方面を攻撃せる敵機動部隊の消息本日まで得られざるも通信活撥にして沖島島方面に迫り北々東に進行中の颱風(七十二〇耗)を回避せる算大にして間も無く當方面に出現し来るや。

昨今日を以て離別の印として各幕僚に一枚宛と考へ揮毫中、度々總員退避を喰ひたるも漸く完成するを得たり。而して午後及び最もいまはしきニュースを情報主任眼の色を變へて持参せり。曰く、

桑港放送……日本は、裕仁を其儘とする條件の下にポツダム宣言に對し其の他無條件降伏を申込みり。時間若干後：戰略爆撃作戦部隊司令官(在マリアナ)は日本がポツダム宣言に對し回答する迄原子爆弾の使用を中止す。

嗚呼！何事ぞ火の無き處煙は立たざるべし。本早朝受信せるCR電令は決戦作戦準備の如何を問はず敵の機動兵力に對しては積極的攻勢を執り、又沖繩方面に向つても攻撃を強化すべく下命あり。從來執り來れる決戦に拘束せられたる羈制をかたて云ふが如く已む

なく脱却せるものとして一時士氣の昂揚を見たるが、前記ニュース受領後幕僚の日吉に連絡せる處によれば敵の宣傳と思惟せる本件を臆氣乍ら裏付けるが如き言あり。斯る重大事項を何故に全責任を帯ぶる長官に一言せざるや。小輩等に之を秘して半信半疑の前記放送は、餘をして甚だしき驚愕を感ぜしめたり。

既に本土決戦迄追ひつめられて本準備に集中して餘念なき時、米の原子爆弾に依り衝撃を受け更にソ聯の参戦となり情況は層一層不利となれるも、之等に對し、策無きに非ず、而も我には猶充分なる戦力あり、只制肘せられて發せざるのみ。

況んや大陸内地には多數の陸軍部隊嚴存するに非ずや、如何せ敗るゝならば窮地に陥らず餘力を存して降服すべしとは一部伶俐者の見解ならんも、斯くの如きは徒らに眼前の利に走つて國家の前途を深憂せざる所謂我利の弱者に過ぎざるなり。

若し今にして斯る擧に出でんも敵の執るべき道は同一にして何等斟酌の餘地無く全敗の結果に終る事明なるのみならず、國民全部をして闘戦の深刻なる經驗を味はしむるに至らず、一部の巧者は反りて焼け膨りの情勢となり傳統の日本精神を根本的に覆し、而も將來

此の長恨を報復するの氣概を失ひ、遂に前途暗澹たるに至らしむるは火を賭るよりも明なる處にして皇國の前途を全く誤る處なり。矢弾つき果て戦力組織的の抗戦を不可能とするに至るも、猶天皇を擁して一億ゲリラ戦を強行し決して降服に出づべからず。

此の覺悟徹底せば決して敗るるものに非ず、遂に彼等をして手を燒きて投出しとならしめ得べし。即ち「道通天地有形外」なり。

而して長官としての餘個人にとりてもまた大に問題あり。大命もだし難きも猶此の戦力を擁して攻撃を中止するが如きは到底不可能なり。決死の士と計りて猶爲すべき處置多大なる事を思ふ。豫て期したる武人否武將否最高指揮官の死處も大和民族將來の爲深刻に考究する處無くんばあらず。身を君主に委ね死を全道に守る覺悟に至りては本日も更めて覺悟せり。

本朝○九發軍令部總長の親展電はソ聯に對戦しつゝ、主敵米撃滅に邁進し巷間の纏説に捉はれざる様との注意あり、關聯せる奉勅命令に於ても些の疑念なきを夜に入り知り大に安心せり。然るに特情班は猶

日本政府は降服を申込みとの放送を聞き倫敦市中の戦勝祝の實況放送、眞珠港又自動車歡喜の警笛吹鳴を報ずと

云ふ。

原子彈の使用、ソ聯の對日宣戦に基く歡喜的宣傳と見て我等迷ふる事無く一路邁進すべきのみ。

(註五十三)當時五航艦の手持燃料は、僅かに全機三回の出撃を賄い得るに過ぎず、聯合艦隊は積極作戦は素より戦闘機の邀撃戦闘にすら使用制限を附していたのである。各飛行場は訓練用燃料捻出のため自ら松根油の製造に大童になつていゝという位燃料の缺乏に悩んでいた。

八月十二日 日曜日 晴

海軍大臣軍令部總長は連名を以て部内に對し「ソ聯の參戦は一層國家危急の時となれり。最後の一人迄も奮闘すべきなり。然る處政府は聯合國に對し和平交渉を開始せるが世論に惑はず統制を完うして國策方針に合致する様」の訓示を各長官宛發せり。

之に依り是を觀れば此の種の交渉ある事正に確實となり不愉快至極なり。而して後刻外放送は「裕仁及其の子孫の位置繼續を認めず、要求を拒否せり」と報ずるに及びサツパリしたる氣持なり。

一方の長官よりも親展電を以て強固なる決意の下に既定の作戦を強行すべき旨電あり。何となく内輪破れの感あり

りて政府の交渉は別個の瀬踏みと見做すべしと云ふが如し。

敵三三三依然本州東方に在り。ソ軍はハイラル、黒河を包圍し北鮮に進入、又羅津に上陸せりとの報あり。巡洋艦三隻を主體とする艦隊は南又は南西に行動開始せるが如しの情報により夜間索敵を行ふ。

敵機の來襲止みたる後一五四五發にて別府病院に赴き金嵌最後の仕上を行ひ何が起きてても可なる如く構へたり。戸塚軍醫學校長金井醫少將外二名兵食一割減に對するやり方を以て講話に來る。

八月十三日 月曜日 晴

夜作戦會報を開き六航軍に連絡せる參謀の歸還報告を聴く。決戦に對する計畫一向に進み居らずと憤慨す。

○六三○守弘參謀副長隨行大立に於ける新艦隊司令部の新壕陣を視察す。十二空廠既設の壕にて仲々廣大

ソ司令部の移動にも備へ準備中なり。第三、四、五、六、七區決戦作戦警戒の電に接す。蓋し本朝○六三○より沼津方面迄敵三三三の攻撃を受け犬吠岬距離一〇〇哩附近に四群あり。又其の東方南方共に相當部隊の行動を探知せるなり。沖繩方面亦輸送船の集中を見るに於て本發令ありたるものと認む。

天航空部隊指揮官たる餘に對し對三三三兵力の中部方面集中及一般航空作戦指導に關する命令あり。又水中特攻の一部を東海方面移動の命令もあり。ソ聯の參戦と共に敵は東西に上陸するの算を増したるに依る。

未だ聯合航空艦隊の編成を見ざるも昨日を以て「ソ」を本日「空」を夫々天航空部隊の指揮に入らしめ、全般は此の趣意により動き來れり。

本朝來外國放送は又々日本の修正條件に對し研究中にして二十四時間以内に回答せらるべしを傍受し、又ガムのニミツは國際符號にて東京局を呼びスウイスを介するは時間を要するを以て平英語にて通信すべしとなし電波を指示せり。何たる侮辱の態度ぞや。

(上部欄外追記)

天皇存續の申入に對し米大統領の支配下に置くの修正案に對し廿四時間以内に日本より回答なしと云ふが眞實なるが如し。

夜に入りて沖永良部島見張所より敵艦船六五隻西方を北上すと云ひ又午前の陸軍司偵も其の南方に相當数の艦船を發見しあるに依り、大島方面に侵攻し來るものと判斷、夜間索敵を實施せしむ。

昨夜天山の沖繩攻撃二隻を屠り今薄暮過喜界島より爆戦は艦艇及空母に各一

體當りせる事概ね確實なり。

三航艦を以てせる晝間對空に攻撃も二隻を炎上せしめたるが如く、更に天山四機を以て夜間之を仕止める様命じたり。

餘の後任者たる草鹿中將本日午後厚木を出發するを得ず一日行動延期となれり。決號警戒中にもあり、敵情に依りては大和及木更津通信施設の不完備に鑑み本職現職の儘當地に在りて天航空部隊を指揮するを有利と認めらるゝに依り當方より連絡する迄交代發令を見合され度旨人事局長宛親展電を發し置きたり。

逼迫せる状況下の長官交代も相當頭を惱ます處なり。

八月十四日 火曜日 晴

壕陣に横はりて夜を徹するも終に確たる夜間敵情を得ず。

午前の陸司偵は坊の岬の二四〇度一八〇渾附近に巡一、驅數、輪三〇の南下を發見、一四〇〇判明し急速索敵を命じたり。彩雲例に依りて可動充分ならず、敵を發見せず。在國分彗星三機の索敵攻撃も要領を得ずして終る。又夜間水偵の索敵も敵を捕捉せざるも昨今敵の若干部隊東海に陽動しつゝあること概ね察知せらる。

關東方面に依然行動しつゝあるも本

日實體を捕捉せず、三航艦司令部も骨を折りつゝあり。

一方ソ聯の艦隊出撃に對し〇〇より速に撃滅すべき要求あり。

先決問題として敵を捕捉するに在るが他隊の協同に俟たざれば實情之を許さず。

關東方面不連續線南下の爲天候不良なり。當地東方を通過北上せる〇〇〇〇〇〇機は岩國方面を攻撃したり。夜に入る迄待ち詫びたるも遂に草鹿中將到着せず。

本日外國放送は帝國の去就につき種々傳へつゝあるが綜合するに降伏受諾に近づきつゝあるが如し。又回答到る迄原子爆彈の使用を中止し、マッカーサー

は東京乗込の準備を爲しつゝ、等報じ、暗澹の氣分試へ共去らず。

夕方大分市長三好一氏來訪す。同氏は戦死せる三好輝彦少將の實兄にして陸軍中將なり。後日歎談を望めるも其の機會は餘には得られざるべし。

八月十五日 水曜日

昨夜半〇〇は決一、二、十一、十二、十三號警戒を下命す。之にて本土四周全部警戒となる。又〇〇參謀長は特に當隊に對し敵本土上陸近しと警報する處あり。機動部隊の執拗なる行動及之に續く東西の攻略部隊らしきもの策

動を認むるも、本土上陸決戦に非ず。寧ろ我降伏提案の時機に投じ四周より虚勢を以て我屈服を促進せんとするに歸するものと認めあり。

間も無く兵領を通じ〇〇は當司令部に對しソソ及對沖繩極攻撃を中止すべく命す。愈々降伏を裏書するに似たり。最後迄戦ふべきに本指令は我意を得ざるなり。

外國放送は帝國の無條件降伏と正午陸下の直接放送あるを報じたり、茲に於て當基地所在の彗星特攻五機に至急準備を命じ、本職直率の下沖繩艦船に特攻突入を決す。

正午君が代に續いて天皇陛下御自ら御放送被遊。

ラヂオの状態悪く、畏れ多くも其の御内容を明にするを得ざりしも大體は拜察して誠に恐懼之以上の事なし。親任を受けたる股肱の軍人として本日此の悲運に會す。慚愧之に如くものなし。嗚呼！

參謀長に續いて城島十二航戰司令官餘に再考を求めたるも後任者は本夕刻到着する事明にして爾後の收拾に何等支障無し。未だ停戦命令にも接せず、多數殉忠の將士の跡を追ひ特攻の精神に生きんとするに於て考慮の餘地なし。

顧みれば大命を拜してより茲に六ヶ月、直接の麾下及指揮下各部隊の血戦努力

に就ては今更啜々を要せず、指揮官として誠に感謝の外無し。又陸軍航空部隊及在臺灣海軍航空部隊との協同も全きを得たるを憐ぶ。

事茲に至る原因に就ては種々あり、自らの實亦輕しとせざるも、大觀すれば是國力の相異なり。獨り軍人たるのみならず帝國臣民たるもの今後に起るべき萬艱に抗し、益々大和魂を振起し皇國の再建に最善を盡し、將來必ずや此の報復を完うせん事を望む。餘又楠公精神を以て永久に盡す處あるを期す。一六〇〇幕僚集合、別盃を待ちあり。之にて本戰漢録の頁を閉づ。

附記

一、戰漢録は開戦前より今日に至り全部にて十五冊なり。

其の一より其の十一迄は郷里、岡山縣赤磐郡瀧瀬村大内宇垣弘一(實兄)方に保管しあり。

二、記事は私事を交へたる秘録にして軍機事項も含みある事あるべし。従つて之か今後の取扱を四十期幹事に委す。絶対に敵手に委する事あるべからず。(終)

〔編者 後記〕

五航艦司令部の一室で幕僚と別盃を飲み交した宇垣長官は、故山本元帥から

贈られた脇差一腰を手にして幕僚と共に自動車で飛行場に向つた。夏草茂る大分飛行場では彗星爆撃機が十一機、試運転の爆音を轟かしている。指揮所の前には二十二名の搭乗員が整列していた。鉢巻した手拭の日の丸の紅が目にしみる。

「指揮官、命令は五機の筈だったが……」
 「指運官、命は五機の筈だが……」
 と言いかけると伊藤大尉は若々しい頬を紅潮させて怒鳴つた。

「長官が特攻をかけられると言うのに、たつた五機で出すという法がありますかッ、私の隊は全機でお伴します」これをきいた長官はツト前におかれた臺に上つて、

「皆、私と一緒に待つて呉れるのか？」
 「ハイッ」間髪を入れず、全員は返事と共に一齊に右手を振り上げた。彼等の純潔な心は死所を得る喜に躍っているかのようであつた。

「有難う」長官は静かに微笑をもつて答え乍ら裏を下りて、幕僚の一人、一人と握手して別を告げた。京童共か黄重假面とあだ名した無表情な彼の面も、今日は晴々とした喜に輝いているのであつた。

風房の中から手を振って別を告げる長官の乗機を先頭に一機又一機、涙と共に

に見送る幕僚の擧手の禮に送られ乍ら十一機編隊は暮れかゝる南の空に消えて行つた。

「過去半歳に亙る麾下各隊の奮戦に拘らず、驕敵を撃碎し神州護持の大任を果すこと能はざりしは本職不敏の致すところなり。本職は皇國無窮と天航空部隊特攻精神の昂揚を確信し、部隊々員が櫻花と散りし沖繩に進攻、皇國武人の本領を發揮し驕敵米艦に突入撃沈す。指揮下各部隊は本職の意を體し、來るべき凡ゆる苦難を克服し、精強なる國軍を再建し、皇國を萬世無窮ならしめよ。」

天皇陛下萬歳。
 昭和二十年八月十五日一九二四
 機上より

「敵空母見ゆ」暫くして、
 「われ必中突入す」
 「ツーッ」と電信員が最後の力をして來た。丁度飛行機隊が沖繩附近にいたと覺しき頃、長官機の発信で、

「遺品を整理しようとした副官は、片身分けまで出来上つて身の廻り品が少しも手をつける必要がない位、奇麗に片附けられているのを發見した。参

謀に書き残された遺墨は躍るような筆勢で、

抱夢 征空

と讀まれたのであつた。



八月十五日靖国神社に詣でて

覚束ない足取りで今年もやってきた大勢の老若男女が踵を接している。その多くは戦後生まれの人。年配者がいても戦時中は未成年か。國政の衝にある者が別の追悼碑を建てようと企てても
 これが庶民の姿だ

五十八年前の今日も暑い日だった。身近かな人達が大勢特攻隊で出撃した義烈空挺隊然り

レイテ作戦で提携の見込みのない目標に欣然と向かつて征つた戦友達
 新婚の妻に「達者で暮らせ」と唯一言さらばとて夫のにぎれるたくまじき

み手のぬくもり今も残れる
 迎え火を焚けばとと様飛行機に乗って行くかと吾子は問うなり
 (何れも挺進第三聯隊の遺族)

敗戦と知って先ず思つたのはあの人達のこと
 それは今も変わらない

富む春秋國に捧げし戦友に
 濟まぬ思いの八十路かな
 柏手に籠る思いが届きしか
 ここに鎮まるかの人達よ

名古屋飛行学校の思い出

大日本青年航空団
名古屋飛行学校依託操縦学生

島山 卓次

大日本青年航空団のことは、この会報26号に載せたが、読者の為要点を述べれば、この組織は昭和12年創設、選抜した青年に滑空訓練を行った。第一訓練生一四八名のうち四〇名は更に名古屋飛行学校で飛行機の操縦訓練を受けた。

この投稿記事は当時の民間の飛行学校の実態がよく現われていて、興味深い。また殉職事故については、危険と隣合わせにある者の心情を汲みとることが出来る。(紙面の都合で次号まわし)

なおこの中に沖繩特攻で戦死した誠三六飛行隊の岡部三郎伍長がいる。このことは島山氏の投稿が会報24号と26号に載っている。

民間飛行学校の実体

昭和十三年春

大日本青年航空団

名古屋飛行学校委託生の頃

「小幡ヶ原から本地ヶ原へ」

永い冬の間、機体の流れるカストル

油の、汚れを拭き取るのに、手の甲を腫れ上がらせた。冷たい風も何時しか止んで、その頃にしてはモダンな、赤や青の小

屋根が、松林の中に点々として目立つ、喜多山の別荘地帯にも春がやって来た。喜多山から続く小幡ヶ原にも、龍泉寺街道筋の桃の花や、菜の花畑が満開に

なる頃に、春は酣となって来る。沢田教官の顔の傷痕は、アンリオで、バラソル目掛けてピッケをし、電線に引っかけた。落ちて墜落した時のものとか、訓練中の吾々には無言の訓練だったが、この様な話も、龍泉寺詣りの、のどかな風景と合わせて、平和な時代を想像させるものでもした。

吾々もその頃からアンリオでの単独飛行も終り、サルムソンに移った。一応初歩の練習機から中級機に移行した訳である。

従って飛行場も。小幡ヶ原より何倍か広い、本地ヶ原の陸軍演習場を、使用する日が多くなり、週番学生の引率で、小幡の学校から本地ヶ原までの五、六軒の道程を徒歩で通った。

当時吾々の使用した飛行服たるや、上衣は牛皮製のWボタン、ズボンは厚地木綿の表生地、裏は羊の毛皮付き、飛行帽は皮張りの大きなヘルメット型

で、いずれも軍の払い下げ品だが、フランスから飛行機と共に輸入されたと思われる、およそ前時代の代物であった。

重い飛行服を担ぎ、飛行靴を引き摺って、田圃道を通り、赤土の坂道を登って行くのは大変だった。勿論飛行機はその間に教官が操縦して、一回目の練習生だけを乗せて移動していた。

序でだから述べるが、小幡ヶ原は飛行場と言うより、騎兵第三聯隊の練兵場の一隅を、間借りして居る様な状態だったので、騎兵の演習がある時は一時離着陸を中止して、長い軍刀をキラメカセながら横隊突撃をする、勇壮な訓練に感心しながら眺め入っていたものである。ある時、対向した指揮官の、隊形変換の号令の、瞬時の遅れか？、

両隊の最尾翼が擦れ違い様に接触して、四、五騎の兵馬が血を流して斃れ込むなどの、実戦さながらの、凄しいばかりの演習を、見たことがあった。

本地ヶ原も小幡ヶ原と同じく、陸軍の演習場ではあったが、南北に延びる広大な草原の南端には、周囲四、五百米の貯水池があり、北側の小高い丘の下の松林の中には、騎兵三聯隊の演習

廠舎が見え隠れしていた。吾々はこの草原の南半分を借用して、飛行演習の合間には翼の下で休み、時

にはヒバリの囀りなど聞きながら練習に励んで居た。

「当時の練習用飛行機は」

これも序でだから披露するが、この頃の民間飛行学校の訓練機たるや、「よくぞ飛ぶ」と言った様な代物ばかりであった。歐洲大戦頃の遺物であり、陸軍がフランスから輸入したもので、軍で散々奉公した揚句、只同然の値段で払い下げられた。ニューポール、アンリオ、アプロ、サルムソン等である。

三機払い下げを受け入れれば一機完成すると言われ、それも整備科の学生を動員し、操縦学生も雨天の時は、飛行機作りの手伝いをして、出来あがる。エンジンのオーバーホールは、組み立て場の庭の隅に穴を掘り、周りに石を置き、ドラム缶を縦半分につめたものを載せ、洗いやし、油を入れて、下から薪を燃やし、分解したシリンドラー等を煮沸して、リングの折れたもので、内部に

こびりついたカーボンを掻落す。吾々もその手伝いもさせられたものでした。着陸操作に失敗して、少し大きなバンドをすると、直ぐに脚が曲がり、翼に張られたピアノ線が切れたり、翼部分の車輪を縛り付けておく緩衝ゴムが切れると、翌日は飛行訓練を中止して、

曲った脚を取り外し、ジュラルミン管の曲りを直し、新しく削った添え木を

付け、布テープを巻き、ドーブを塗って、それでOK。なんの事は無い、骨折した足に添え木をして、包帯をした様なものでした。

切れたピアノ線の張り具合は、タンバクルで調整するのだが、調整が悪いと飛行した時の翼のバランスが狂うので、試験飛行した教官から、何回もやり直しをさせられたものでした。

翼の振れの調整は、吾々練習生が眼で見ただけでは、簡単に分かるものではありませんでした。

次にエンジンに就いて説明すると、アンリオ、アプロ用のルローン80/HP、110/HPのエンジンは、星型・空冷・六気筒、曲軸固定の回転式エンジンである。と言っても実物を見て居ない人には、一寸判断が付き難いかも知れませんが。

機体に曲軸(クランクシャフト)が固定されて居り、クランク室の周りに、星型に配列された六つの気筒内の爆発力は、シャフトが固定されて居る為逆の力が作用して、気筒・即ちエンジン自体がシャフトを中心に、回転しだすことになる。

プロペラは曲軸室の前蓋に装着されて居るので、プロペラの回転数は、エンジン自体の回転数と同じになる、と言う空前絶後の仕組みになっている。

クランクケースの裏側、即ち機体との取り付け面が摺動式配電盤になって居て、機体内の発電機からの電流はここで分電され、ケース内の電線を通じて気筒側より外部に出て、気筒頭部のプラグに送られる様になって居たが、この外部に出ている線は、一〇番線位の銅の振線で、頑丈に留められていた。強い圧力と遠心力が働き、通常考えられる差込みぐらいいでは、直ぐ外れて飛んでしまうからである。

ガソリンタンクとオイルタンクは、共に中央上翼内にあつて重力式であるが、キャブレターからの混合ガスパイプや、オイルパイプは総て、固定されているシャフトの下部から、クランク室内に入り、送気管を通じて、外部から気筒頭部の吸気弁に送られるが、エンジンオイルは始動と共にケース内で遠心力で気筒内に放出され、筒内シリンドラーのオイルリングで潤滑されるが、排気弁から飛び散る量が多かった。これが頭書部分の、「機体の下部を流れるカストル油(ひまし油)の汚れ」である。

エンジンを始動するときには、両手でプロペラを押す様にして三〜四回まわしながら、この間に吸入圧縮をするのであるが、寒い朝など「デカンター」と声を掛けながらガソリンレバーだけ

を開き、キャブレターに生のガソリンを注入することがある。

この時はプロペラ回しの別の者が、吸入管の口に手を当てて、混合ガスを濃くしてやる。

こうしてプロペラをまわしながら、吸入し圧縮点を探り、点火位置を合わせてから、機上で「点火！」と言う合図と同時に、スイッチを入れ、下の者が、プロペラを跳ね上げるようにして、回転させ、始動するのであるが、これには仲々の熟練が要る。タイミングが合わない時、時々手指の先など跳ねられることがある。

アンリオの離陸時のレバーの操作がまた難しい、ガソリンとエアの、別々の二本のレバーで調整するのだが、始めに左手親指を掛けたガソリンレバーを先行させ(多く引く)、エアレバーは離陸滑走の途中から人さし指と中指等で、ガソリンレバーを追い越す様に引いてくる等と、13対1の混合比は自分の手で作らなければならない、等と誠に骨の折れるエンジンであった。

その操作が悪いと、バンバンと一向に調子が出て来ない。右手に操縦桿を握って離陸滑走中に、左手指の引き具合に気を使わなければならず、練習生の吾々には苦勞の種だった。陸軍では己式一型練習機と呼称していた。

次はサルムソンだが、軍では乙式一型偵察機となっていたが、これもまた変わっている。

星型水冷九気筒二二〇馬力のエンジンの前面に、四角形の蜂の巣型のラジエーターがあり、その前に水温調節用の菊花形のシャッターが付いている。飛行中ビュ・ビュ・とラジエーターから水漏れでもすると、着陸後に茶色のおがくずの様な粉末を、水の注入口から入れてやり漏水箇所を塞ぎ、それでOKとする。至って簡単な修理法だが、それより致し方がないのだ。

操縦席の右翼内側支柱に、径十二センチ、長さ三十センチ位の砲弾型の本体に、三十センチ位のプロペラの付いているものが、燃料ポンプである。飛行中は勿論だが、地上では、エンジンが始動しプロペラが回転しだすと、その風圧でこの燃料ポンプのペラも回りだし、ポンプが作動する仕組みになっている。

ガソリンが送られているかどうかは、操作席の横にパイプの一部がガラス管になっていて、その中を小さな赤いボールがフラフラッと、上がったたり下がったりしていれば、燃料ポンプは作動している証拠となる。

潤滑油に至っては、タコ坊主式の計器が座席前のダッシュ盤にあり、火星

人の頭のような形をした、径四、五センチの硝子製半円球型の中で、時々油の動くのが分かれれば、これもそれだけでOKとなる。それでもアンリオのローンのエンジンよりは、燃料ポンプやオイルポンプがあるだけ、まだ増しである。アンリオでは前述の様に、中央上翼にあるガソリンタンクからの、重力式であるから、甬返りも出来ない。勿論機体の強度上禁止されていた。

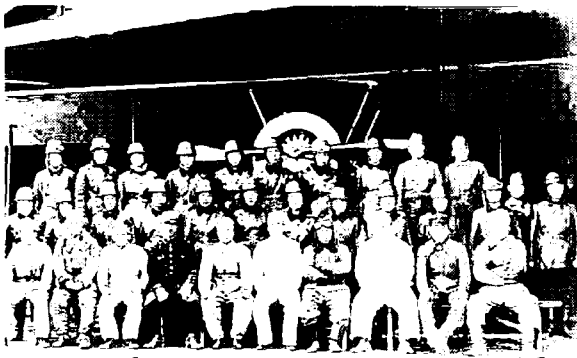
オイルタンクも同じ所からの重力式であるが、前述のようにエンジンの回転の遠心力で、気筒の中に飛散させるだけなので、一寸飛行してくるとすぐ捕給しなければならず、誠に不経済である。その上胴体下部に流れる様に飛び散ったカストル油の掃除に泣かされる始末であった。

同じルロンのエンジンを取り付けられた、アンリオやアプロを見ると、第一次欧州大戦の頃は新鋭機であったらしく、大戦中の機上から小銃で狙い撃ちしている、絵巻物が想像される時代物であった。尤も、払い下げ後、格納庫入りした儘の、甲式四型戦闘機があったが、大戦後期の物か？機関銃が取り付けられていた跡があった。

この様な旧式の、よくぞ飛ぶと言った様なアンリオ機であったが、霧ヶ峰ではグライダーで初めて地面を離れ、

名古屋飛行学校入校前の、甲府飛行場では、教官の操縦するこのアンリオで、高度千米の体験飛行をさせて貰い、入校後の小幡飛行場でも、猛訓練の後、単独飛行を許された時の喜び等々何れも無我夢中であったが、懐かしく思い出の機であった。

飛行訓練もサルムソンに移行した頃から、一応落着きを取り戻した感じになつてはいたが、そんなある日、思わぬ事故に遭遇した。



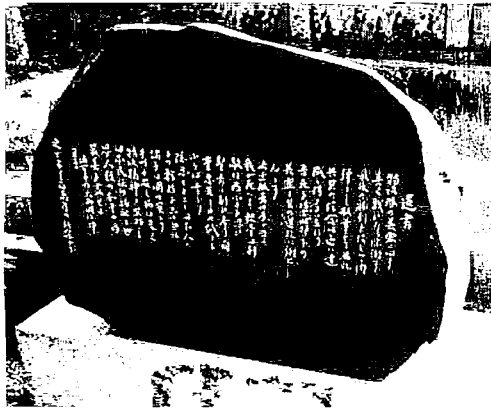
大日本青年航空団委任操縦学生 アンリオ練習機

この事故のことは次号。

大西瀧治郎の遺書



遺書
 始は勝美堂...
 夫は我らに...
 夫は我らに...
 夫は我らに...



鶴見総持寺の墓所にある

終戦の大詔が下った翌十六日、渋谷南平台の軍令部次長官舎で割腹自決した。軍医が駆けつけたときは、已に腸がとび出ていて助かる見込みはなかった。苦しい息の中でも介錯を拒否し「これで送り出した部下達への責任がとれる」といって、特攻隊員の後を追った。

遺書

特攻隊の英霊曰す
 善く戦ひたり深謝す
 最後の勝利を信じつつ肉弾として散華せり然れ

共其の信念は遂に達成し得ざるに至れり
 吾死を以て旧部下の英霊と其の遺族に謝せんとす

次に一般青年に告ぐ
 我が死にして軽率は利敵行為なるを思ひ

聖旨に副ひ奉り自
 重忍苦するの誠ともならば幸せなり

隠忍するとも日本人たるの矜持を失ふ勿れ
 諸子は国の宝なり

平時に処し猶ほ克く
 特攻精神を堅持し

日本民族の福祉と世界人類の和平の為
 最善を尽せよ

海軍中將大西瀧治郎

八月十六日

之でよし百万年の昼寝かな

安井少尉の日章旗帰る

前号で安井少尉の御遺族が見つからないこと、萬世飛行場跡に建てられた加世田市平和祈念館が、日章旗が返還された場合には、同館で保管・展示したいとの意向を有する旨を、松林先生に報告したことまでを記述した。

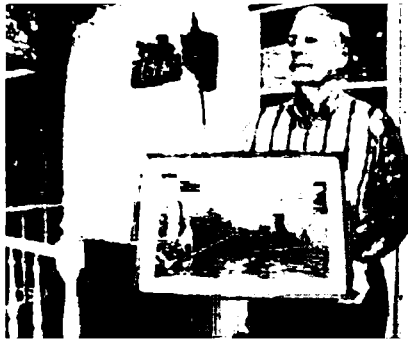
元米軍兵士のマック・ムンク氏(81歳)(Mr. Mac Munk)は、記念に持帰った日章旗を、この儘保持していることに疑念を生じているというところを耳にした、ユタ大学広報室に勤務するアン・フロア(Ms. Ann Floor)さんが、この情報をユタ大学建築大学院で教えている松林先生に伝えたことが、そもそもの事の始まりであった。

フロアさんの案内で松林先生もムンク邸を訪れた。夫人によると、最近のムンク氏はボケが来ているのに、この時は実に鮮明に当時のことを語ったそうである。且つこの話は、夫人も初めて聞かされたとのことである。

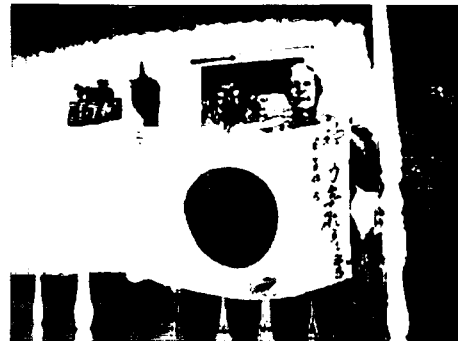
かくて、6月半ば過ぎに安井少尉の日章旗は当協会に届き、加世田平和祈念館に転送された。

安井少尉の御遺は、さぞ安んじられたことであろう。御遺族が判明することを望んで止まない。

(平成15年6月30日)



ムンク氏が手にしているのは氏が乗務していた船の画像



松林和人氏(左)、マックムンク氏(右) 於ムンク邸

世田谷観音寺・特攻観音堂 補修費御寄進のお願い

理事長 最上 貞雄

元華頂宮邸に在った御堂を移築した特攻観音堂は、近來廻廊部分の腐朽がひどくなつて来たので、この度廻廊全部の改築、白壁の全面塗替えと、一部補修、垂木切断面の白塗装、を主とする補修工事が行われることになりました。

工事は年明けに着工され、明年の秋の法要までには完了することと、総工費約一〇〇万円と見積られております。尚本堂の補修工事は既に着手されており、こちらは年内完工予定であります。

当財団は、昭和28年に発足した世田谷観音奉賛会を淵源とし、昭和56年に竹田元宮殿下を会長に戴いて、特攻隊慰霊顕彰会と名称を変更、平成4年5月に元宮殿下が薨去されて、翌5年11月に財団法人に衣替えをして、特攻隊戦没者慰霊平和祈念協会と名を改めて今日に至っておりますが、世田谷観音奉賛会とは二身一体で運営されて来ている。

この事を若い会員の方々の中には、良く理解しておられない方もおいでになるかも知れません。

特攻観音堂補修費の一部を、会員も負担したい旨申し出ました処、御住職は有難くお受けすることとでありました。

例年通りの今年の秋の法要のお知らせの中で、払込取扱票に特攻観音堂改修御寄進の一項を加えました。

一口、二〇〇〇円として、何口でも構いません。御寄進を賜りたくお願い申し上げます。



去る1月3日逝去された

野崎慶三氏を偲ぶ

震洋会

第16震洋隊(吉田部隊・八丈島)先任艇隊長の野崎慶三氏(予学3期・水雷・大尉・特攻隊戦没者慰霊平和祈念協会評議員・震洋会顧問)が一月三日の朝六時四十五分に逝去された。享年八十一歳。

野崎氏は中央大学法学部から、海軍第三期兵科予備学生として採用され、昭和十八年十月一日に旅順海軍予備学生教育部で基礎教育に入った。術科教程は水雷で、第一期魚雷艇学生として横須賀田浦の水雷学校と長崎県川棚町の臨時魚雷艇訓練所で教育を受けた。

少尉任官、横須賀防備隊魚雷艇部付を経て第16震洋隊の艇隊長として、水雷学校で発足間もない震洋の特攻訓練に励んだ。十九年十月十一日、昭和天皇が震洋隊激励のため侍従武官を差遣されたとき、氏はその式典の甲板士官をつとめた。部隊編成、小笠原の母島進出のため寿山丸で先発した基地隊は、敵潜の雷撃により基地隊長一名を残し全員海没戦死。次いで硫黄島進出の命令を受けたが、ほどなく米軍の上陸作戦が始まり、渡航の術なく、二十年三

月に八丈島によりやく進出。洞輪沢基地で終戦まで特機の日を送る。同隊は島の名古展望台に「太平洋の黒潮に偲ぶ」と刻んだ記念碑を戦後建立した。

戦後、氏は予科練出身の若者たちを指揮して北海道に渡り、炭坑で石灰掘りに汗を流し、荒廃の祖国再建に血を燃やしたという。そして昭和54年9月(株)震洋通信を創設、代表として海軍情報誌「オールネビー」第1号を刊行した。平成7年8月の終刊第16号まで、十六年の長きにわたって文字どおり心血を傾注して、海軍の伝統を継承するべく、努力して来られた。なかでも、「震洋」の戦史解明に尽された功績は大きい。また、慰霊顕彰の震洋会の発足も、氏が生みの親であり、顧問として長い間、献身的に尽された。

昭和五十六年、陸海軍有志の呼びかけで結成された特攻隊慰霊顕彰会の設立に当っては、海軍側の一員として、海軍特攻団体の参加に大いに貢献された。特に震洋隊の参加に関しては、氏の尽力なくしては実現し得なかった。昭和六十一年靖国神社遊就館特攻コーナー開設に際しては、当時の顕彰会副理事長鈴木瞭五郎氏の呼び掛けに依りて、海軍各特攻部隊会の意思統一を図るべく、準備打合会を開催して其の現に努力なされた。また特攻平和観音

奉賛会が、観音寺に安置された二体の観音像の胎内に奉蔵されている、特攻戦没烈士の名簿に、新たに舟艇特攻戦没烈士を追加合祀したおりには、海軍舟艇関係(特潜・回天・震洋)担当理事(顕彰会理事)として、主任担当理事生田惇氏に協力された。

平成二年特攻隊慰霊顕彰会が三部からなる「特別攻撃隊」を発刊した際には、編集委員として震洋隊を担当された。平成十四年特攻財団(略称)が、「特別攻撃隊」の改訂版を企画し、各関係団体に校正を依頼した際にも震洋隊の校正を担当されたが、それが氏の最後の仕事となった。

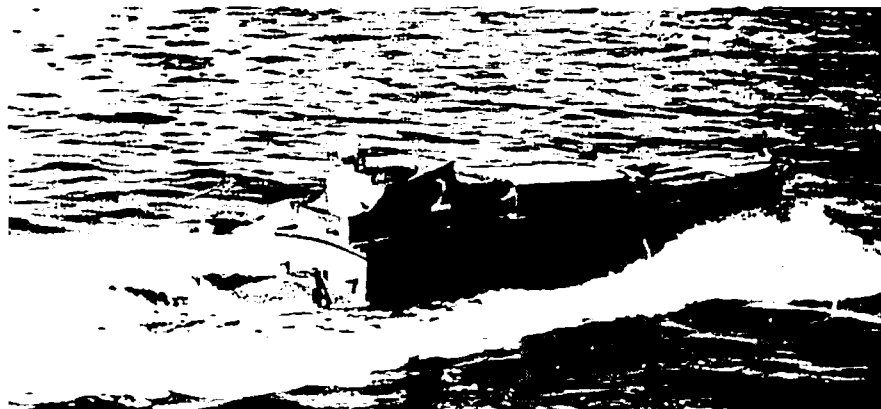
平成五年特攻隊戦没者慰霊平和祈念協会が認可され、特攻隊慰霊顕彰会は解散。氏は財団の評議員に就任され今日に及んでいた。

平成十三年に第一線から引退され、気持ちも新たに転居されたが、本年三月突然の訃報に接し、会員一同驚きと悲しみにくれている次第です。得難い先輩を失い、残念の一言に尽きます。氏の遺稿「特別攻撃隊の生と死」の中に「震洋特攻隊戦死二千五百有余名、慰霊、供養、そして輪廻転生、美しい日本の今」がそれであろう。」とあります。

生涯を海軍一途に筋を通された偉大

なる先輩今は亡し、哀悼に堪えず、どうか安らかにお休み下さい。

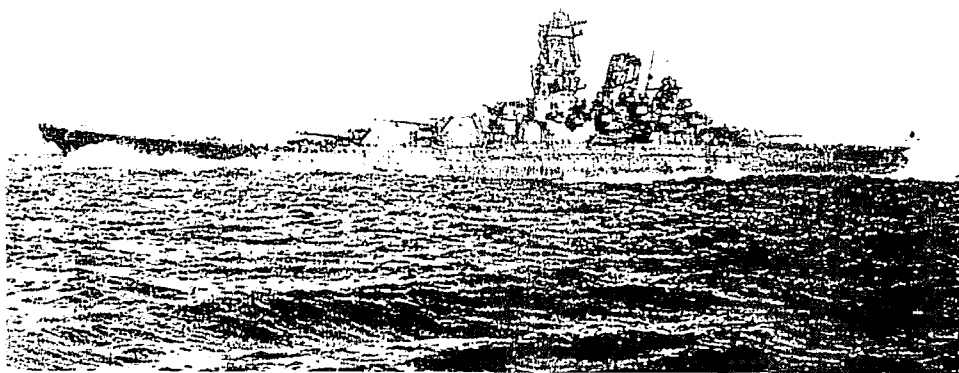
合掌



震洋

戦艦大和以下

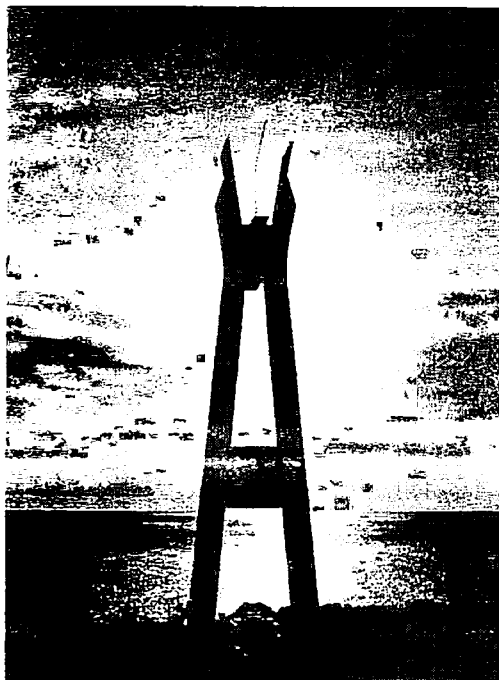
特攻艦隊の碑



戦艦大和

戦艦大和以下の海上特攻

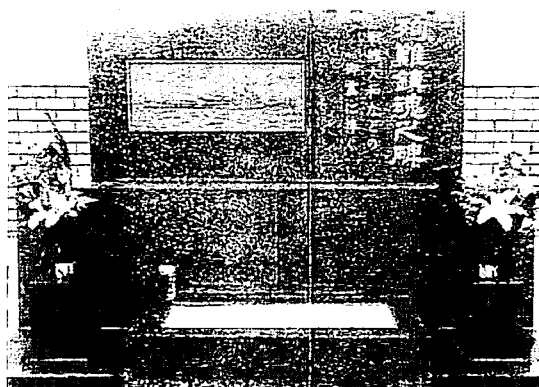
沖繩の地上軍の総攻撃（これは陣前出撃に変更されるが）及び航空の菊水一号作戦に呼応して、戦艦大和以下の特攻艦隊は4月6日一五二〇瀬戸内海徳山錨地を出撃した。大隅海峡を出た後は一機の上空援護もなく、一路沖繩に向かい暴進したが、7日一二四〇頃から枕崎西南西約二〇〇キロの洋上で敵艦載機数百機の攻撃を受けた。交戦約二時間、大和のほか巡洋艦天翔、駆逐艦磯風、浜風、朝霜、霞が沈没し第二艦隊伊藤整一司令長官以下三七二名が艦と運命をともにした。



戦艦大和を旗艦とする特攻艦隊慰霊塔
所在地 鹿児島県大島郡伊仙町大田布岬（徳之島）
建立 昭和43年4月7日
管理者 伊仙町役場



特攻艦隊留魂碑
所在地 山口県防府市江泊（江泊山中腹）
建立 平成5年4月3日
管理者 留魂碑建立世話人会 代表 友広忠利



殉難鎮魂之碑
所在地 鹿児島県枕崎市火之神公園
建立 平成5年4月
管理者 枕崎商工会議所内
平和祈念展望台事業奉賛会

今期の戦史 ③

第一挺進団の天覧演習

田中 賢一

この記事は戦史というには当たらないが、その中に当時の空挺用法や統率のことが含まれているので、あえてこのシリーズに割り込ませてもらう。

不運の第一聯隊

我が陸軍最初の空挺作戦には挺進第一聯隊が使はれるのは当然だったが、この聯隊は南進の途中輸送船明光丸の海難に遭い、人員は全部救助されたものの装備一切を失った。さらに上陸してからアミーバー赤痢に多くの者が罹り、一時戦力が全く無くなった。

そこで急遽第二聯隊を招致し、パレンバン作戦を行ったが、第一聯隊としては無念遣る方なかった。パレンバン作戦終了後、挺進団長としても何とかこの聯隊を使ってやらねばと、心を痛めていた。総軍でもその事情は理解していて、チラチャップ、サバン、バンカランプラタン、アンダマンの四つを挙げて挺進団に意見を求めた。

チラチャップはジャワの南岸にある港湾で、敵が濠州から増援を送り込み

またジャワから撤退するには必ずこの港を使わなければならない。サバンはスマトラの西北端にある島で、敵が印度に撤退する為の要衝である。バンカランプラタンはスマトラ西北部にある油田で、パレンバンよりは小さいが年産一〇〇万屯は生産していた。アンダマンはベンガル湾にある群島で、敵潜水艦の基地になっており、ビルマに対する船舶輸送を安全にする為、なるべく早く占領したい所である。

第一聯隊は既に戦力回復しており、これらの案に対し独自に研究し、先走って部署まできめるほどの熱の入れようであった。団司令部では大局に立って研究し答申した。

かくするうちに、ジャワの攻略は予想外に早く進み、敵はチラチャップから脱出したものの、我が海軍に捕捉されてしまった。サバンについては北部スマトラの攻略に任じた近衛師団が奪取してしまった。それより前にバンカランプラタンの油田は、敵が徹底的に破壊したという事がわかった。またアンマダンについては、敵が自主的に撤退した。かくして第一聯隊の目標は泡の如く消えてしまった。

次は大きな希望を抱いてビルマに転進したのであるが、ラシオ作戦は前号に述べたような結末になった。

南方進攻作戦が一段落したので挺進団は内地に帰ることになった。両聯隊は六月の中頃船舶輸送で内地に帰った。第二聯隊は凱旋であるが、第一聯隊の傷心は消えなかった。

宇都宮で天覧演習を行う事になる七月に入って早々だったと記憶するが、宇都宮飛行場で降下戦闘の天覧演習が行われるということが示達された。挺進団はまだ復員しておらず、司令部と飛行戦隊は新田原に挺進練習部と同じ居しており、両聯隊は宮崎郊外の住吉の廠舎に入っていた。

天皇陛下にパレンバンの戦闘について報告するのだということも、受けた文書の中にあつたと思う。またこのことは実施までは当事者以外には秘匿せよとあつた。これは去る4月18日所謂ドーリットルの空襲があり、このような事があつては大変だと思つたからだった。

パレンバン作戦の報告とあつても、不運の第一聯隊にやらせるのは当然と誰しも思った。飛行戦隊は南方から帰る時、機種改編の為口式輸送機をサイゴンの航空廠に移管し、まだ百式輸送機(MC)をもらってないので、二個中隊しかなかったが、挺進練習部の飛行隊を加え四個中隊を揃えることが出

来た。全部で四十機ぐらいあつたと記憶する。

参加部隊は挺進団司令部、挺進第一聯隊、集成飛行隊だった。司令部ではパレンバンの時初め木下中佐、田中中尉(私)、水田曹長、向山曹長が聯隊と一緒に降下しようしたが、久米団長が「俺が強行着陸機で行くからお前らは基地に残れ」と言われ、残されたので、今度はこの四人が降下することになった。団長は副官らを従え降下後着陸することにきまつた。

ここで一つ裏話を申せば、降下したら仮設敵が反撃に出るが、戦車を持っているという事は判っていた。これに対し、速射砲を使わなければならなかった。その頃はまだこの砲は投下できなかつた。パレンバンの時は団長の強行着陸機に載せて行つたが、今回もそうしようと考えた。しかし脚を出さずに強行着するのならばすぐに曳き出せるが、演習で飛行機を壊す訳にはゆかぬ、通常の着陸姿勢では、速射砲を卸すのは大変で、しかも時間がかかる。そこで速射砲は砲手とともに玉座の反対側の松林の中に隠しておいて、降下部隊が態勢を整えた頃出てきて、戦闘に加わるという案が出た。

聯隊にはそのような芝居をすることはない。天皇陛下に申訳が無いという者もい

たが、高級部員の木下中佐は、滑空機の開発を急がないと速射砲も持って行けないということ、中央に認識させるよい機会だと、その案を採った。

もう一つここで秘話を申せば、初めは降下部隊は新田原から輸送機に搭乗して行くと考えていたが、飛行戦隊は整備員や管理要員を連れて行くので、降下部隊は所沢まで地上輸送で移動する事になった。

輸送の手配は司令部各員の私の役目である。私は直ぐに門司の鉄道輸送司令部に出向いた。

この演習については当事者以外には秘匿せよと言われたので、私は輸送司令部の担当者に天覧ということは伏せて配車を要求した。

ところが相手はそんなことに急に申込んで目下作戦関係の輸送が輻湊しているの直ぐには応じられないと、私が辞を低くして頼んでも聞いてくれない。困り果てて私は司令官に直か談判することにした。

鉄道輸送司令部の司令官は色褪せた旧式軍服の老大佐だった。一目で召集の将校とわかった。

私がパレンバン戦闘を天皇陛下に報告する為の演習に行くのだと言うと、俄に立ち上がり不動の姿勢をとり、万難を排し、御要望に応じますと答え、

私の方が感動を覚えた。

演習実施

第一聯隊の降下部隊は空輸と鉄道輸送を併用して所沢飛行場に集結した。

団司令部からは前述の通り木下中佐以下四名が聯隊と同行降下することになった。当日関東地方は風は穏やかであったが、霞がかかり、ラシオ作戦の轍を履むのではないかと危ぶんだが断乎発進した。パレンバン、ラシオ両作戦と同様、戦闘機の掩護のもと堂々の編隊を組み、関東平野を横切つて北上した。宇都宮飛行場では玉座の傍に東

条首相以下の高官が扈從し固唾を飲む中を、先ず急降下爆撃機が上空に現われ、飛行場の一側に布陣する歩兵、戦車、高射砲に対地攻撃を行い、これに肩接して輸送機編隊が進入し一斉に降下した。落下傘兵は素早く武装を整え、所在の敵を駆逐して飛行場を占領し、それに続いて輸送機三機で後続部隊が着陸した。これは今後滑空機を開発し、大部隊を続々と送り込めるようにしたいという念願の一端を現わしたものである。やがて反撃に転じた仮設敵と、陛下の御馬前に於て壮烈な攻防を演じ、この演習は終了した。

当日雲低く降下高度は四〇〇mであった。松浦軍曹は主傘が体にまきつき、

予備傘を引いたが予備傘が半分出たときに地面に激突して殉職した。訓練中の事故は初宿軍曹につぐ二人目で栄ある演習に一大痛恨事であった。

天皇陛下には侍従武官を通じ演習部隊に激励と弔問の御言葉を賜った。

本演習は第一聯隊の歴史を飾り、士気を高めること甚大なものがあつた。天皇陛下から賜つた御言葉は聯隊長室に掲げ、第二聯隊がパレンバン作戦に於て南方総軍司令官からも賜つた感状に対抗し、俺達は、天皇陛下から誉められたのだと胸を張つた。



飛行場跡は現在工業団地になっており、その一隅にこの碑が建っている



松本武仁画

知覧特攻基地 戦没者慰霊祭

菅原 道熙

第49回知覧特攻基地戦没者慰霊祭は、平成15年5月3日13時から開式された。例年13時30分の開式であったが、帰路の交通渋滞を考慮して今年から30分繰り上げ開始になった。

好天に恵まれ観音堂の露天幕下、全国各地から集った約千名の参列者が合掌する中、町内、教行寺の早川教栄、光寿寺の吉田絃信両住職が入堂されて

読経が始まり、この間に各代表が焼香して、慰霊法要は慰霊式典に切替えられた。

知覧特攻慰霊顕彰会会長、霜出勘平知覧町長が追悼の言葉を述べ、引継ぎ、稟議、町議、遺族、借行社・陸士57期生会、特操会、全国少飛会の各代表が、堂前に進み出て追悼の言葉を述べた。地元錦城会の献詠、参列者全員の献花が終って町長挨拶、次いで全員起立して、陸自国分駐屯地音楽隊の伴奏で一同声高らかに、加藤隼戦闘隊と同期の桜を合唱して閉式した。町長は挨拶の中で、来年の第50回慰

霊祭には、現在のコンクリート柱のみの素通しの観音堂は、寺院造りの木造建築に改築されていると明言された。広さも三倍になるという。

昭和29年に建てられた小さなお堂の上に、現在の観音堂が建てられたのは、昭和49年のことである。

20年、50年を卜して、観音堂が後世に恥ずかしくない立派なたたずまいを整えるのは誠に喜ばしいことである。

例年、陸、海、空の自衛隊代表が慰霊祭に参加されているが、今年はそのに町出身の新兵さん(陸)が3人加わり、最前列の椅子に緊張して座り、全員に紹介され焼香・献花を行った微笑ましい光景が之に加わった。

噫々 知覧特攻隊

国難迫る沖繩に

悲報は梅の歯を引きて

狂乱既倒必殺の

夷狄に加えん鉄槌を

嵐に散るか桜花

我が選びたる道なれや

夕陽沈む五月空

臉に浮かぶ故郷の

尽きぬ思いを断ち切りて

身辺清し一封に

万斛の情折りこみて

言い残すこと既になし

黒潮洗う薩南の

緑滴るこの大地

祖霊まします大八州

愛しき人よ同胞よ

双肩に負いて我は征く

さらば幸あれいざさらば

御霊に捧ぐ一輪の

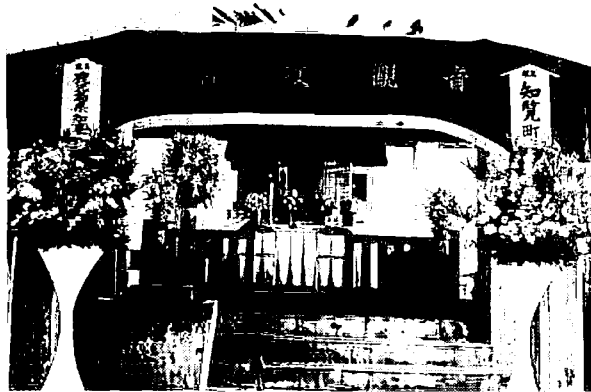
菊花に寄する我が念ひ

「同期の桜」高誦して

遥かな空に雲流れ

頬に伝わる涙あり

噫々知覧特攻隊



三角兵舎を見て思ふこと

此所の慰霊施設の中に復元された三角兵舎がある。見つめていると、ここで幾夜か過ごした特攻隊員の心情が偲ばれる。如何なる夢をみたであらうか

六十余年後の我々が思うより、その頃真相を知る人の談を聞いてみよう。

知覧高女なでしこ会編「知覧特攻基地」から抜粋させてもらう。この本は当時基地に勤勞奉仕に行き特攻隊員の身のまわりの世話をした女生徒達の手記である。



女子勤勞奉仕隊員の記録

知覧高等女子学校三年 一五歳 前田 笙子
特攻隊築隊地

特攻日記

昭和二十年三月二十七日

作業準備をして学校へ行く。先生より突然特攻隊の給仕に行きますとのこと、びつくりして制服にきかへ兵舎まで歩いて行く。はじめて三角兵舎にき、どこもこれも珍らしいものばかり、今日一日特攻隊の方々のお部屋の作り方。こんなせまきしい所で生活なさるのだと思つたとき私達はぶくぶくした布団に休むのが恥づかしい位だった。わら布団に毛布だけ、そして狭い所に再びかへらぬお兄様方が明日の出撃の日を待つて休まれるのだと思ふと感激で一杯だった。五時半かへる。

三月二十八日

今日は特攻隊の方のいらつしやるお

部屋へまはされたが、初めてのことで恥づかしく逃げたりしたが、自分の意気地のないことを恥ぢた。明日からはどしどし特攻隊のお兄様方のおつしやることをおき、して、お洗濯やらお裁縫を一生懸命やらうと思ふ。

三月二十九日

朝お洗濯をして午後ちよつと兵舎の掃除をしたついでにはおはなしを承る。大櫃中尉を隊長とする第三十振武隊の方々は若いお方々で、隊長さんの威厳とした態度、私達には至つてやさしい隊長さん、部下の方々も実に隊長様になつていらつしやうた。松林の中で楽しく高らかにうたをうたふ。

三月三十日

今日はお出発なさるとのこと。朝早く神社の桜花をいたゞいて最後のお別れとして私達のマスコット人形とを差上げる。無邪気に喜ばれる。貨物で飛行機のところまで行つて食糧等を詰込んであげる。昔はがらかに「元気で長生きするんだよ」と言はれて愛機に飛び乗られる。愛機には、さまざまなマスコット人形が今日の出撃をものがたるやうに風にゆられてゐる。出発なさつたが天気都合でかへられる。大変残念がついていらつしやうた。

知覧特攻基地の思い出

永崎 笙子
(旧姓 前田)

三角兵舎

知覧基地の兵舎は、飛行場周辺の松林の中に散在していました。半地下式、木造のバラック建てで、屋根の上には大きな木が横倒しになって擬装されていました。ちょうどどぶつうの建物の軒に置いたような形で建てられていましたので、三角兵舎と呼ばれていました。内部は棟木と平行して真中に通路があり、通路の両側に一段高い床があつて、そこは畳敷になっていました。その狭いところが、隊員の方々の休まれる場所でした。棚一つあるわけでもなく、一夜の雨露さえしのげればいよゝな粗末な造りで、風通しも悪く、中はいつもじめじめとしていました。私たちが女学生にまず与えられた作業は、隊員の方々の休まれる寝床づくりでした。当番兵がつくり方を教えてくれました。藁布団のしわをのぼして毛布数枚の掛布団をかけ、毛布の両側と足元を布団の下にくるみこんで寝袋のようにつくる、いわゆるベッド式のものでした。私たちが動員された日の昭和二十年三月二十七日には、すでに先着

の特攻隊の方々がおられ、その後、次々と後続の部隊が集まってこられました。掃除、洗濯、つくろいもの、食事の用意など、毎日が忙がしくなりました。隊員の方々は、各地を転々となさる間は洗濯もできなかったのでしょうか、また、身の回りに目を向ける余裕がなかったのでしょうか、洗濯物はいつも山のようになりました。

隊によっては、シラミのわいている方もおられました。隊員の方々はホワイトチューチューなどといって、別に気がとめる様子もないようでしたが、私たちは初めて見るシラミに、体じゅうがむずがゆくなりました。マフラーの折り目や、肌着の縫い目にじゅずつなぎになっているシラミを指先でもみ出して石でつぶしたり、煙の立ちのぼるのを気にしながら、空腹の合間をぬって煮沸したりしてから洗濯場ですすぎましたが、そのたびに気味が悪くなり、背筋の寒くなる思いでした。

靴下の破れをかがったり、ボタンをつけたりする裁縫は、女学校の教育方針としてきびしくつけられていたもので苦にはなりませんでしたが、空腹を避けて谷間につくられた炊事場から、高台にある食堂までの坂道を、ご飯やおかずを運び上げるのは、一四、五歳の私にはたいへんきつい作業

でした。

ある時、当番兵から食事の準備を言いつかり、直立不動の姿勢で、「復讐！

前田、ただいまより飯上げ（軍隊用語で食事の準備のこと）に行つてまいります」とおどけて言うと、当番兵は一瞬ハッとしましたが、すぐ「よいし、君も前田か、俺も前田だ」と言われ、二人とも思わずふきだしてしまいました。

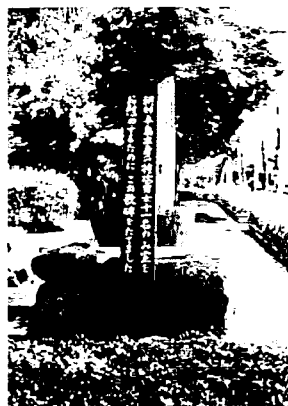
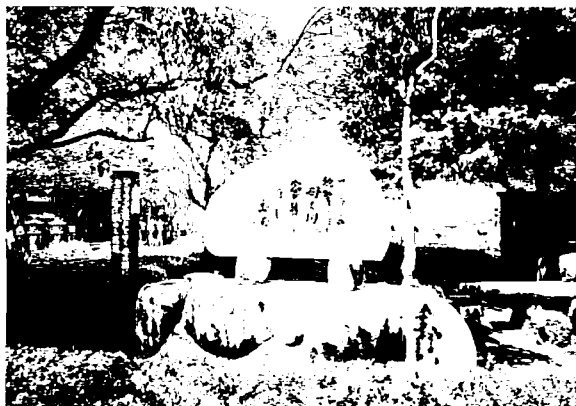
た。最前線基地という緊張感の中にも、フツと息の抜けるようなひとときもありました。食堂では、すでに並べられてあるアルミ製の食器に盛りつけをし、それが終ると兵舎の皆さんに「食事の用意ができました」とふれ回ります。食事は、あとわずかしかない方たちに対するせめてもの心づくしでしょうか、当時の私たちには、ほとんど見ることでできなかった白米のご飯に、これも貴重品だったお肉や、お魚のおかずがついていました。

特攻出撃が激しくなるにつれ、三角兵舎の隊員の顔ぶれが次々とかわりました。早朝や夕刻の出撃で主のいなくなった兵舎内は、二、三日後の夕方になると新しい隊員で、またいっぱいになりました。

朝鮮半島出身の

特攻戦没者を偲んで

慰霊施設の地域内にこの碑が建っている。

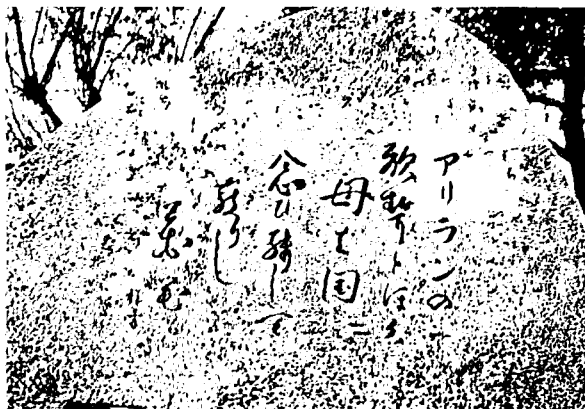


朝鮮半島出身の航空特攻戦没者は十一柱という。その中に一人光山文博少尉について特攻おばさん鳥浜トメさんの語ったことが「特攻おばさんの回想空のかなたに」に載っている。

ある将校

ある将校

「私の親族の一人が日本のためにというのでなく、一兵士として立派な最期を遂げたことを一族の誇りに思う」。ソウル五輪景氣にわく韓国慶尚南道でタクシーの運転手をしている卓成洙さん（三三歳）は電話でこう語った。卓





光山文博少尉 本名卓庚鉉さん。京都薬学専門学校（現在の京都薬科大）を卒業後、特別操縦見習士官1期生として知覧にあった太刀洗陸軍飛行学校分教所に入学。特攻隊員として知覧に戻った。5月11日、第51振武隊員として出撃、24歳で戦死。



トメさんと記念撮影をした光山さん（昭和20年5月、知覧町の富屋食堂前庭で）

さんは光山文博少尉のいとこの孫にあたる。

実は光山さんに打ち明けられるまで特攻隊員に朝鮮半島出身の方がいるとは知りませんでした。光山さんは私がお見送りしたたくさんの特攻隊員の方々の中で、一番心に残っている人です。戦後、全国からたくさんの遺族の方々が消息を聞くことやってきました。しかし光山さんについては、だれもたずねる人はなく、悲しい思いをしておりました。

忘れもしません。出撃前夜の二十年五月十日でした。光山さんは私の食堂

（富屋）に「別れにきました」と一人でやってきました。隊のみなさんは帰られて私と娘二人の三人だけでした。光山さんは悲しそうな顔をして「クニの歌を歌うから聞いてくれ」といいます。恥ずかしそうにかぶっていた戦闘帽を鼻のところまでずり下げ、ささやくような声で「アリラン」を歌いました。顔は涙でぐしょぐしょでした。

二番目を歌うころは、言葉になりませんでした。いじらしくてね、四人で手をとりあってわんわん泣きました。光山さんは翌日の朝、出撃されてそれきり帰ってきませんでした。

五十八年九月、同じ一期生だった鹿

児島県特操会長長で産婦人科医の前田末男さん（六七歳・鹿児島市在住）ら元戦友の方々が光山さんの遺族を捜しました。両親、兄弟はすでに亡くなり、卓成洙さんが最も近い親類。翌年五月三日の特攻慰霊祭に前田さんらが招待されましたが、直前になって来日できなくなり、遺族の代理として遺族が協力した前田さんの知人の朴炳植さんがやってきました。「光山さんは日本人の身代わりになって立派な最期を遂げられました」と伝え、戦時中並んで写した写真を朴さんに託しました。肩の荷がやっと一つおりましたよ。あれから四十余年。もうすぐソウル五輪が始まりますが、足さえ丈夫なら韓国に出かけ光山さんの遺族と語ってみたい。

「特別攻撃隊」改訂4版刊行

この度び当協会発行の特別攻撃隊改訂4版が刊行されました。

主な改訂点は、従来掲載された慰霊碑7件の写真と説明が追加されました。他に新しい付帯施設が完成して、その写真を追加したのも若干あります。

購入御希望の方は、当協会事務局までお申込み下さい。本（領価一部三、五〇〇円）と振替用紙を送りますので、送料一部四〇〇円と共に、折返し御送金下さい。

事務局長交代のお知らせ

事務局長木村元正は、昨年末を以て退職、この度び後任として菅原道熙が就任致しました。引続き宜敷く御協力賜りたくお願い申し上げます。

訃報

本会評議員野崎慶三氏は、本年一月三日に逝去されました。慶洋関係で色々御貢献を戴きました。謹んで御冥福を祈りつつお知らせ申し上げます。

市ヶ谷台上にある 陸軍航空碑々前祭



4月15日に行はれた。参加者は岩宮奉賛会長以下約300名、生憎の雨だったので各個に碑前に献花し、恒例の諸行事は市ヶ谷会館内で行はれた。なお現在の組織でこの行事を実施するのは来年までとして17年以降は航空白蘭隊退職者で構成している「つばさ」会が継承して行うことになった。

由緒ある市ヶ谷台上にあるこの碑は全陸軍航空部隊の戦死者、殉職者鎮魂の碑である。主碑に刻まれた碑文及び由来記もさることながら、この碑の主眼は諸側にある「鎮」「魂」二個の副碑に二一〇四の部隊名刻まれているのである。

航空碑奉賛同人会宴に寄す

歴史漂う 市ヶ谷の 堀辺の桜 散り敷きて
 亡き友偲ぶえにしあり 玉楼の宴 語らえば
 雲間に消えし男児らの 面影永遠に若くして
 装帯の名も 鮮やかに 臉に浮かぶ 友の顔
 ここに連なる 武夫の 霜おく眉や眼差しに
 面魂いまま 健やかに 過ぎし昔の 物語り
 南十字の 星のもと 征きて帰らぬ 梓ゆみ
 ああ我が齢いくばくぞ 六十年は 夢のごと
 烏兎勿々の 流れ星 酒杯に満るそのかみの
 共に抱きし心ざし 変わることなく今もなお
 若き旗幟のままにして 燃ゆる思いは 迸り
 貴様と俺の歌声に 比肩に入れや 逝きし友
 お国の為という事の 絶て久しき世となりぬ
 栄華に酔いて仮初めの 平和に浸る 現世に
 我等余録の 年なれど 木鐸たらん 老骨も
 後に続くを信ずると 遺せし言葉 忘れんや

は や て



都城市特別攻撃隊戦没者慰霊祭

菅原 道照

毎年4月6日に都城市の旧陸軍基地内に在る疾風慰霊碑の前で、都城市特別攻撃隊戦没者慰霊祭が執り行われている。昭和20年4月6日の第1次沖繩総攻撃の一環として、都城に展開していた101及び102戦隊の志願者によって編成された、第1特別振武隊の8機が初めて西飛行場から出撃した日に因んでのことである。

更にこの日、新鋭の4式戦(疾風)が初めに特攻機として使用されたことも銘記されなければならない。航統距離が長い利点を生かして都城からの出撃となったのである。12日の第2次総

攻撃で残る2機も出撃した。28日の第5次総攻撃に呼応すべく待機していた61振武隊の7機は、27・28両日に巨る敵艦載機の空襲で飛行場が使えなくなったので、急拠東飛行場に移動して出撃した。

以後、5月4日から7月1日にかけて、8次に亘って62機の特攻機が東飛行場から出撃し、沖繩作戦に都城から合計79機が飛立った。

疾風慰霊碑の前に79名の名前を記した碑がある。それとは別に陸士57期生会の鎮魂碑の裏面には、特攻10戦士の次に、木下武彦と記名されている。木下中尉は、7月1日に第180振武隊長として僚機3機と出撃されたが、鹿児島湾上空で敵機により、僚機の村下伊三、男伍長機と共に撃墜戦死の悲運に遭った。特攻認定を下されなかった。そこで援護戦闘機として出撃散華された8名の戦士と共に、御兩人の名前が併記されるに至った。更に末尾に、第百飛行団末永正夫以下戦没者之霊とある。

第百飛行団の資料によると、司令部及び隼下101、102、103の3戦隊合計して、末永正夫101戦隊長(53期、昭和20年4月17日戦死)以下38名の方が戦死されている。79名の特攻戦死者の陰に、その半数以上の方が、援護作戦で命を喪

つて居られるという事を、我々は忘れてはならない。

祭主の岩橋辰也市長は、特別戦死者と同世代である。挨拶はその事に触れて声涙共に下るものになった。更に毎年成人式で、新成人に対して特攻隊の2、3年若い人までが、祖国の急を救わんとして一身を捧げられたことを忘れてはならない、と強調されていることも披露されて、約四〇〇名の特攻隊者に深い感銘を与えた。

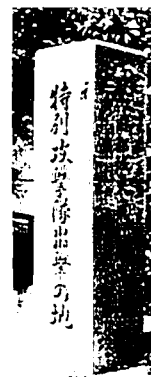
恒例の陸士57期、少飛会、地元婦人吟詠会による献歌、御遺族代表の挨拶、機付整備員(少飛)が飛入りで、手を振って莞爾として飛立ったその姿は、永遠に忘れることはないとその心中を吐露されて、式典は滞りなく終了した。

西飛行場は、地元の歩兵第23聯隊の満州からの凱旋を記念して、地元民の奉仕で昭和9年に完成した。昭和17年4月に逋信省航空機乗員養成所が開設され、同19年には明野教導飛行隊が展



開して、戦闘機(隼、疾風)訓練が行われる様になり翌昭和20年3月12日特攻基地になった。

東飛行場は、昭和19年前半に海軍飛行場として急造され、零戦の訓練に使われていたが、やがて陸軍専用となり、昭和20年4月末からは、都城の主特攻基地化した。



7月末に東飛行場の西方約5kmの所に北飛行場が完成し、第95・96振武隊(95式中練、24機)が進出、志布志湾の米軍上陸に供えたことは、殆んど知られていない。尤もその頃になると敵艦載機が跳梁して、訓練飛行も俚ならなかった様である。

以上都城の慰霊祭に敷衍して、東、西、北3飛行場について、若干の紹介を行った。



陸軍挺進部隊慰霊祭

田中 賢一

5月24日靖国神社で行われた。この日義烈空挺隊が突入した日である。参列者は64名だったが、参加できないがとて玉串料や奉賛金を送金してくれた者が20名もいた。参列者は遺族、戦友のほか白衛隊空挺部隊退職者も23名加わった。

陸軍挺進部隊の戦歴を大別すれば、パレンバン、比島方面、沖繩戦の義烈空挺隊の三つとなる。このうちで戦死者が最も多いのは比島方面である。レイテ島の東部平地に向かった第三聯隊長白井少佐以下約500名は一人の生還者もない。更にオルモック救援に向かった第四聯隊長斎田少佐以下約500名も殆どが戦死した。ルソン島に残った者及びネグロス島で戦った一部の者も大半が戦死した。比島作戦末期に出動した滑空関係部隊は、空母雲竜で滑空歩兵第一聯隊等が海没し、出動部隊の半数近くを失い、ルソン島に上陸した者もクラーク付近及びバギオ北方地区で戦い全滅近い状態となった。これ等にパレンバンと義烈特攻を加えると、約一万柱が靖国の御祭神となっている。祭典は恒例通り行われた。靖国神社

のおける慰霊祭は隔年行うことにしているが、今年参加した老兵達、再来年はどうなることか。

直会の席上私は自作の「陸軍挺進部隊一代記」なる歌詞を配布したが、その中の戦歴関係部分を紹介する。

三、大詔拜す 南進の

歓声揚がり腕を撫す

となう 挺進殉国は

これぞ我等が合言葉

マラッカ海峡雲晴て

赤道越ゆる 大編隊

忽ち降すパレンバン

白人搾取の 大牙城

六、レイテは伝う天王山

高千穂の名二千の士

大廈は 既に 傾きて

一臂支うる 術もなし

七、翼 失いし 滑空隊

我遅れじと 馳せ向う

恨みはつきず 雲竜や

屍を晒す ルソンの野

八、我が空挺の由来記の

掉尾を 飾る 特攻隊

後に続くを 信ずると

九、茫茫遙るか 半世紀

あゝ青雲に 花負いて

蒼空よりの 声享けて

献句

文芸欄

陸士の60期 原口英二

童顔のままの遺影や若桜

花万朶天翔けて神となり給ふ

花月夜苔薄くつく特攻碑

しきりなる落花几段の大鳥居

戦没のあとを追ふ旅花水木

卯浪晴れ「呑竜」ねむる比島沖

はるか征き虫となりて還り来る

追想

昭和十九年十二月十三日、第四航空軍司令官富永中將より「第九飛行団は全力を以つて特別攻撃隊(菊水隊)を編成せよ」との命令を受け、丸山義正大尉を隊長とし、74 F 二機 75 F 七機をもつて編成。

十四日未明敵艦船攻撃に発進した。

隊員の吉水忠弘軍曹(米子乗員養成所出身)は私の家内兄です

饗宴によせて 同期生大会にて

田中 賢一

隙ゆく駒のたゆみなく 臉にじむ思出の詩章いろどる閃きは 国に殉ぜし 群像の面影とわに若くして 心に沁むる今宵かな

ここに連る一むれの 霜おく眉や目差しに 面魂いままのばれて 過し昔を語らえは 弾雨潜りし強者の 炉辺談話の尽くるなし

されば風雪幾年か 酒杯に満るそのかみの 貴様と俺の心根は 変ることなく今もお お若き旗幟の儘にして 燃る思いを言傳てん

玉の筵に居並びて 羽觴は繁くここかしこ 歌声起る雄叫びの 団居に入れや亡き友も 青春の日の 祝歌 懐いは 遙か 百日祭

註 士官学校出身者以外の方に一言、

百日祭とは予科卒業の百日前頃兵科が決まるので、悲喜こもごもの 思いを以つて会合し、一騒ぎする ならわしがあった。

義烈空挺隊碑前祭

田中 賢一

沖繩摩文仁の丘の上にある碑の前で
5月7日行われた。これについて特筆
大書しておかなければならないことが
ある。主催者は全日本空挺同志会沖繩
支部である。この会は旧軍挺進隊員、
自衛隊空挺部隊退職者及び現職空挺隊
員の三者をもって構成されており、全
団に支部をもっているが、沖繩には在
野の会員はいない。嘗て習志野の空挺
団に在職し、その後沖繩の自衛隊に転
属となった現職自衛官をもって支部を
構成している。そして義烈空挺隊が突
入した5月24日に近く、自衛隊行事に
支障ない日を選んで碑前祭を行ってい
る。このことが支部団結の核心ともなっ
ている。

今回本土から出向いたのは私のほか
同志会本部から一名、空挺団から四名
だった。勿論私以外は戦後に育った人
で、老兵による慰霊行事が先細りになっ
ている折から、この例だけは今後も続
くこと確実である。
本土から出向いた者を主体にして前
日の六日、読谷飛行場跡を訪れた。こ
こには義烈空挺隊玉砕の地というコン
クリート製の柱が建っている。



義烈空挺隊玉砕の地

この地で起きた戦闘について米軍の
或る書物は次の通り報じている。
二十七日一四一〇、敵側の無線は
——強行着陸した日本軍全滅。本日
一〇〇〇以降北飛行場の使用支障なし
と放送した。

米軍は伝える
米岡で刊行された書物から義烈空挺
隊に関するものを拾ってみると、
五月二十四日には、海岸及び沖合の
艦船に対する日本軍の来襲は頻繁となっ
た。

二十四日晚、天空は澄み渡り満月で
爆撃には最適であった。二〇〇〇空襲
警報発令となり、解除になったのは、
二四〇〇であった。この間来襲を重ね
ること七回に及んだ。
第一回来襲の数は、読谷、嘉手納
の飛行場を爆撃し、第三、第四及び、
第六回目の来襲群も、飛行場に対する
投弾に成功した。
第七回目の来襲群は「挺進隊」と呼
ぶ双発爆撃機五機からなり、二二三〇

頃伊江島方向から低空侵入した。対空
中隊はこれを要撃し、その四機は、炎
上しながら読谷飛行場附近に突入した。
しかし最後の機は胴体着陸し、読
谷飛行場滑走路を、東北から西南に滑
走した。
忽ち少なくとも八名の完全武装兵が
この機から躍り出て、滑走路に沿って
配置してある飛行機に向かって、手榴弾
及び焼夷弾をもって攻撃した。
このためコールセイアー二機、C-
54輸送機四機、及びブライベーター
一機が破壊された。その他二六機(リ
ベレーター爆撃機一、カルカット機三、
コレサー機二機)が損害を被った。
日本軍空挺部隊着陸のため惹起した
混乱で、アメリカ兵は戦死二、負傷一
八を生じた。二二三八には増援部隊が
読谷飛行場に到着し、飛行場勤務部隊
を支援し、さらに来襲を予想する空挺
部隊に対応する配置についた。
この攻撃のため総計三三機の破壊損
傷機を出したほか、ドラム缶六〇〇個
分即ち七〇〇〇ガロンのガソリンが
炎上した。
調査の結果によれば、日本兵一〇名
が読谷において戦死し、他の三名は飛
行機内に於て対空砲火のため戦死を遂
げていた。その他の「突入機」四機に
は、それぞれ一四名の兵士が搭乗して

いたが、いずれも炎上した飛行機内に
散乱して発見された。遺体の総数は六
九を算した。翌日一名の日本兵が残波
岬において射殺されたが、おそらく空
挺部隊最後の兵士であったのだろう。
読谷飛行場は、滑走路上に散乱した
破壊物の破片のため、二十五日〇八〇
〇まで使用できない状態であった。
読谷飛行場に対する攻撃と同時に、
日本軍飛行機二三機が、伊江島飛行場
に来襲した。この爆撃は飛行場に対し、
直接大損害を与えなかったが、米軍は
六〇名の戦死者を出した。
この夜空中攻撃によって、日本軍一
機を沖繩上空で、一六機を伊江島上
空で撃墜した。
また、別の書物には次のように書い
てある。
第五番目の飛行機は、指揮塔から約
二五〇フィート、東北から西南に伸び
た滑走路に胴体着陸した。
約一二名の日本兵が無事着陸し、少
数の勇敢な者が、いかなる程度のこと
ができるかを実際に示した。
飛行場に置いてあった飛行機が、爆
薬により破壊され炎上し始めた。コ
ルセイアー三機、第一艦隊飛行団の二機及
び輸送機四機が破壊され、その他二九
機が損傷を受けた。なお七万ガロンの
ガソリンが燃やされた。

調査の結果によれば、日本兵一〇名
が読谷において戦死し、他の三名は飛
行機内に於て対空砲火のため戦死を遂
げていた。その他の「突入機」四機に
は、それぞれ一四名の兵士が搭乗して
いたが、いずれも炎上した飛行機内に
散乱して発見された。遺体の総数は六
九を算した。翌日一名の日本兵が残波
岬において射殺されたが、おそらく空
挺部隊最後の兵士であったのだろう。
読谷飛行場は、滑走路上に散乱した
破壊物の破片のため、二十五日〇八〇
〇まで使用できない状態であった。
読谷飛行場に対する攻撃と同時に、
日本軍飛行機二三機が、伊江島飛行場
に来襲した。この爆撃は飛行場に対し、
直接大損害を与えなかったが、米軍は
六〇名の戦死者を出した。
この夜空中攻撃によって、日本軍一
機を沖繩上空で、一六機を伊江島上
空で撃墜した。
また、別の書物には次のように書い
てある。
第五番目の飛行機は、指揮塔から約
二五〇フィート、東北から西南に伸び
た滑走路に胴体着陸した。
約一二名の日本兵が無事着陸し、少
数の勇敢な者が、いかなる程度のこと
ができるかを実際に示した。
飛行場に置いてあった飛行機が、爆
薬により破壊され炎上し始めた。コ
ルセイアー三機、第一艦隊飛行団の二機及
び輸送機四機が破壊され、その他二九
機が損傷を受けた。なお七万ガロンの
ガソリンが燃やされた。

この日本軍の挺進攻撃によって、想像に絶するような混乱が、基地内に起きた。小銃機関銃火が乱れ飛び、米軍に多数の死傷者を生じた。管制塔勤務のケーラー中尉は負傷後死亡し、他に一八名が負傷した。中には足一本を吹き飛ばされた海兵隊の搭乗員二名を含んでいる。

日本兵は損傷した輸送機に隠れて手榴弾を投げ、これによって十八名のうち四名が負傷した。最後に残った日本兵の一名は、五月二十五日午後零時五十五分、道路から敵に這い込もうとしたとき、米軍に発見され射殺された。合計六九名の日本兵の死体が数えられ、海軍設営隊の手で埋葬された。捕虜になった者は一名もなく、ある者は自殺した。日本軍はこの攻撃で飛行機九機を破壊し、二九機に損傷を与え、日本軍の損害はただの五機であった。

もう一つ別の書物には、米軍の混乱ぶりを次のように伝えている。

撃墜されなかった一機は、胴体着陸を強行した。そしてその滑走がまだ停止しないうちに、空挺隊員は飛行機から飛び出して、手榴弾や爆薬を近くにまといっている飛行機に投げ始め、さらにその一帯を小火器で掃射しはじめた。この全く信ずることのできない突発事と、それに続く混乱の様相を、くわし

く書くことはむずかしい。なぜならその大部分は、話から話に伝わってゆくうちに、真実がわからなくなってしまうからである。さて、碑前祭は地元会の会員(自衛官)に折しも訓練の為習志野の空挺団から出向いた者合せて約40名が参列して行われた。

義烈奥山隊の将校とは、私は面識があり、就中奥山隊長とは昵懇な間柄だった。私の方が一期先輩ではあったが、部隊は違っても狭い挺進部隊内のことで、良き飲み友達だった。

彼の面影を思い浮かべつつ、追傍の一文を奏上した。

義烈の英魂に捧ぐる辞

鳥兔匆匆戦熄んで五十八年 苛烈なりし戦局も我が脳裏から消え失せんとするも この碑の前に佇めば 烈士の面影油然として臉を過る 戦況日に非なる秋 我等挺進部隊の戦友達 その半ばは比島戦場に壊滅し 内地に在る者何れ後に続くを期しある時 義烈の士敢然として沖繩戦場に突入せらるる 群がる敵艦船に対する我が航空特攻も 優勢なる敵空軍に阻まれ 目標に到達し得ざるもの多く 戦

勢打開のため 義烈空挺隊の説合、嘉手納の陥りこみの秘策決定せらる 特攻隊に指定せられ雌伏すること半歳 起生回天の戦法に全軍の絶大なる期待を担い 必成を期し発進せられしも 時既に遅く狂乱を既倒に廻らすに到らず 諸士が熊本健軍基地を発進する写真を見るに 明朗闊達なる容貌 悲壮感絶えて無きは 重大なる任務を担う喜びなるか 武人の本懐たる心境ならん 往時茫茫 翻って我が国の現状を見るに 道義頹廢 國を思うの情地を払い 義烈の士の崇高なる精神と乖離すること何ぞ甚だしき 我等微力なりと雖も 義烈英魂の歩みし道を世に宣揚し 聊かなりとも御霊に応えんとす ここに居並ぶ自衛隊員も志を同じくす 懺せ給え 靈前に額突き 偉勳を讃うることにならんかと ここに長詩一篇を捧ぐ

あ、義烈空挺隊

一、南陸の空 雲荒れて 菊水の旗 いく度か

わが陣頭に 翻えり 若き命は燃えたちぬ その名床しき健軍に出撃の陣ととのいぬ われ育くみし故郷よ 栄あれ永久にいざさらば

二、①人生わずか 五十年

下天のうちをくらぶれば 夢まぼろしと人はいふ その半にて散るとても 見はてぬ夢に変わりなし 今こそ征かん美しく 後継ぐ人に言伝てて われに続けや若人よ

三、奥山諏訪部の両雄は

笑を湛えつ手を握り 心に残るくまもなし 今日この爲に我等みな 春掠乱の 花の日も 秋蕭条の 月の夜も 鋭心磨き 一すじに 武夫の道 歩み来し

四、金峰山に 沈む陽に

うち連れ帰るとも鴉 幼き思い 今絶ちて 爆音消ゆる西の果て 雲間に洩るる月三更

奥山ついた 突入り
 唯一言の 無線にて
 永久に絆はと絶えたり

五、北飛行場 異変あり

着陸するな退避せよ
 敵の電波は乱れ飛び
 阿修羅の如き活躍に
 応じて立てり特攻機
 苦き命は燃ゆるとも
 天地懸河の 大勢を
 止むる術は既になし

六、②「待つありて眺むる

月の涼しさ」と

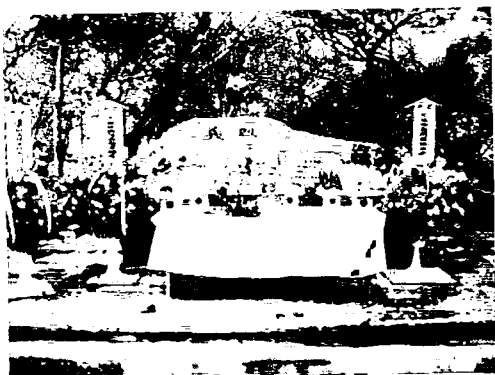
詠いし人よ今いずこ
 ハイビスカスの花紅く
 平和の姿よみがえる
 星辰めぐり 半世紀
 征きにし人の面影は
 久遠の若き保ちあり
 若人 義烈空挺隊
 あ、 義烈空挺隊

①謡曲「敦盛」の一節

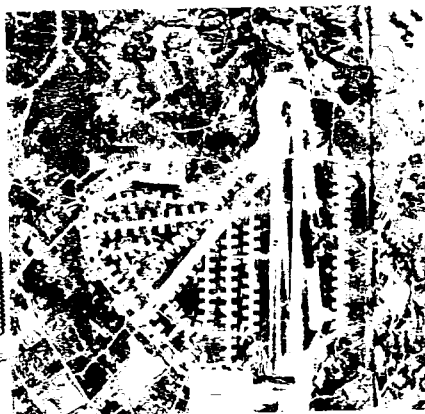
②三独飛新妻幸雄少尉の遺墨



追悼文奏上



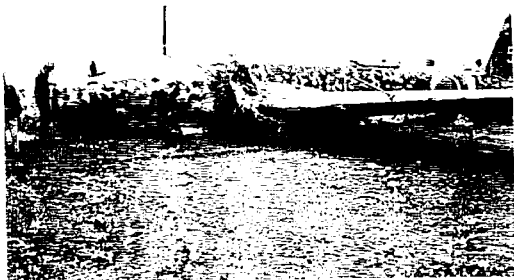
特攻協会の献花がある



敵が占領した
 読谷飛行場



破壊された米軍機



強行着陸した一機

回天に沈められた米艦の戦友会

評議員 小灘 利春

護衛駆逐艦に、米國海軍は破格の榮譽を

人間魚雷「回天」に撃沈された米國軍艦の戦友会が現在なお活動を続け、戦没者を追憶する慰霊祭を盛大に執行している。そして彼らは、敵方であった我々に意外に思えるほど好感を持っている。

乗組機関兵曹長の子息ヘンリー・ロード氏は戦闘状況を詳しく調査した結果、親の仇である苦の日本人、日本という国に好感を抱き、来日して茨城県那珂郡にある勝山少佐の実家を訪ね墓参した。

戦例①

終戦間近かの昭和20年7月24日、沖縄東方の洋上で回天特別攻撃隊「多聞隊」の伊号第五三潜水艦から兵学校73期の勝山淳中尉（没後少佐）搭乗の回天がただ一基、発進した。回天は米軍輸送船団を指揮して航行中の護衛駆逐艦「アンダーヒル」に命中、撃沈した。

平成12年9月のその日、少佐の弟妹ほか親族が集まり、同期生の元回天搭乗員や伊五三潜の航海長も加わって「昭和20年7月24日を偲ぶ会」が開催された。故・勝山少佐とアンダーヒルの戦没乗員とともに偲ぶ懇談の席である。以後ロード氏は来日の都度、親族たちと会って親交を深めている。

艦長以下一二名が戦死、救助された乗員一六名は戦友会を結成し、慰霊祭を年々、同艦戦没の日に合わせて開催を続けている。場所は首都ワシントンに近いアナポリスにある米國海軍兵学校の教会である。米海軍は二百年の歴史をもつが、この学校の構内で慰霊祭の執行を許されているのはアンダーヒルの戦友会だけであるという。回天と戦って斃れながらも船団を護った一

勝山少佐の甥小野止実氏が中心になって同戦友会のメンバーとの情報、連絡に当たった。双方の意思疎通が急速に進展したのは、近年普及したメール通信に負うところが大きい。この戦闘の経過、意義の探究を通じて双方の間に育まれた親近感「最善を尽くして堂々と戦う者は敵味方を問わず尊敬する」という軍人同士の共感があると思われる。



このほど小野氏から、米海軍兵学校の教会前で記念撮影をしたアンダーヒル戦友会約六〇人の参列者の写真が財団に提供された。

戦例②

昭和十九年十一月二十日、回天特別攻撃隊の第一陣「菊水隊」が西カロリン諸島の米軍前進基地ウルシー泊地を攻撃、米艦「ミシシネワ」に命中した。

同艦は爆発し長時間燃えつづけたのちに沈んだ。米海軍の最新、且つ最大型の艦隊随伴油送艦であった。全乗員二九八名中五〇名が戦死、九二名が負傷。燃えさかる火焰と重油が一面に広がる海から無事に救助されたのは一五六名であった。その生存者たちによる戦友会が現在も盛んな活動を続けており、新旧の写真を収めた立派な会誌を発行、また年々全米各地で戦友会を開催している。

同戦友会の運動により、二年前に米國海軍の潜水隊がウルシー環礁内を調査し、同艦終焉の地点、状態を確認、それによりミクロネシア連邦政府は海中に在る同艦の周辺を「聖なる墓域」に指定し、一般人の潜水、立ち入りを法令で禁止した。今春、同艦内に残る積荷燃料油の抜き取り作業を米海軍の大型救難艦が開始したが、そのあと沈没状況の精密な調査を進める計画がある。

本年の戦友会は七月二三日より米國北東岸ロードアイランド州のプロビデンス市で開催される。周辺の歴史ある軍港ニューポートの海軍関係施設や各種軍艦の見学旅行を兼ねる五日間の充実した会合になるであろう。慰霊祭は記念艦の戦艦マサチューセッツの後甲板で執行される。当全国回天会にも案内状が来たが、日本から遙々参加する有志があるので我々の代理を兼ねて頂

くつもりでいる。

乗員の子息マイク・メヤー氏はこの戦友会の幹事であるが、父と同様に大の親日家になり、第二次大戦の戦史をミシシネワを軸に記述を進めてきた。回天作戦全般についても、日米の関係者と緊密な連絡をとって詳しく調査し、新しい資料を数多く発掘した。信頼度の高い戦史書として近日、米海軍研究所から刊行される予定である。



ウルシー泊地で炎上中のミシシネワ

44 11 20

戦例③

回天特別攻撃隊「多聞隊」の伊号第五八潜水艦は米重巡「インディアナポリス」を昭和二十年七月三十日未明、魚雷攻撃で撃沈した。同米艦は二発の原爆を米本土から最大速度でデニアン島のB29基地に運搬する重大任務を終えたあと、レイテ湾に回航中であつた。乗員一、一九六名、そのうち生還できた者は僅かに三、六名であつた。魚雷が命中したとき真先に電源を破壊されて救難電報が発進できず、また単独航行であつたために、遭難者は救助されるまで四日半ものあいだ太平洋上を漂流した。戦没者の半数は溺死であり、米海軍にとって戦中最後、且つ最大の悲劇となつた。

艦長マックベイ大佐は軍法会議で有罪の判決を受け、のちに拳銃自殺を遂げた。戦友会は艦長と同艦の名誉回復のため五三年ものあいだ運動を続けた後、ようやく成就した。同艦の記念碑が米国中部インディアナ州の州都インディアナポリス市にあり、その碑の前で同艦の戦友会が追悼式を行っている。

伊五八潜がインディアナポリスを攻撃中、回天に乗艇して発進の命令を今か今かと待っていた搭乗員は「敵艦が

沈まないなら出してくれ」と再三、艦長に催促した。しかし九五式酸素魚雷二型の炸薬量は五五〇キロもある。魚雷が三発命中したのを潜望鏡で視認している艦長は、獲物を確実に仕止めたと判断して回天を発進させなかった。したがって同艦の悲運に回天は直接の関与はしていないので、互いの連絡は目下のところ取るに至っていない。

03・5・30



インディアナポリス追悼式

95 5 2

靖國神社における
特攻隊員合同慰霊祭に臨みて

九段の桜 棚引きて
鎮まる御霊 温かく
なごめ奉るか春の風
心浄まる 神のにわ

御国に嵐 迫るとき
先駆け咲きし 桜花
散て残せし色と香は
世を靖國と護りゆく

共に誓いしかの友よ
幽明分かち 半世紀
額突く毎に 新なる
おもいを合わす 掌

宮居に鎮まる我が友は
匂うが如き 若き武者
手拍子とりて謡いたる
同期の桜 聞こえる

かなしき命つまかさね
護りきたりし国なれや
後継ぐ人は如何ならむ
離騒の念の絶ゆるなし

離騒とは楚辞に出ている語句で憂国と解すればよい。

殉国冲縄学徒顕彰五十八年祭



冲縄慰霊の日である六月二十三日に靖国神社で行われた。戦後この慰霊顕彰に精根を傾けておられた金城和彦氏は病臥中だったが、同志の人達で例年通り滞りなく進められた。

毎年この行事で感銘に堪ないのは、祭文を奏上するのが大学生ということである。今回は明星大学学生の久田広光さんだった。御祭神を先輩方と呼び県立第二高等女学校白梅学徒隊の大嶺美枝命の遺書を引用し、参列者の胸に迫るものがあった。また現憲法や教育基本の非を鳴らし、堂々たる祭文だった。

次で次の詩歌が奉納された。
嗚呼冲縄戦の学徒隊

- 今様漢詩 金城和彦
- 和歌 金城ふみ
- 和歌 八雲一

・今様

矢弾の中で健気にも
咲いて散りにし若桜
尊き御霊よ安らかに
五色の雲に祈らむ

・詩

愛国の至誠烈火の如く
童顔の学徒防戦に当たる
刀折れ矢尽き我が事畢る
相抱き相擁して遂に玉碎

・和歌

悲しさのあまり井戸までかけたれど
水汲みし子の足あともなく
―ひめゆり部隊に二人の娘を捧げた母の歌

・詩

砲声天を焦がし弾雨降る
血河山野阿修羅の如し
学徒挺身天地に赴く
嗚呼忠魂萬古に薫る

次いで対馬丸で殉職した疎開児童の御祭神に対し「ふるさとの歌」が奉納された。

兔追いしかの山
小鮒つりしかの川
夢はいまもめぐりて
忘れがたきふるさと

冲縄各中学校学徒隊人数と戦死者数

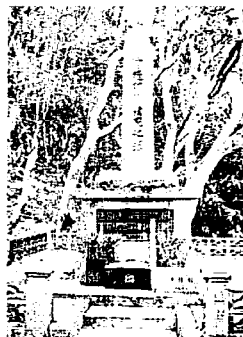
金城和彦著

「嗚呼冲縄戦の学徒隊」に依る

冲縄師範学校男子部鉄血勤皇隊

入隊学徒三〇〇名中二八八名戦死

職員一九名戦死

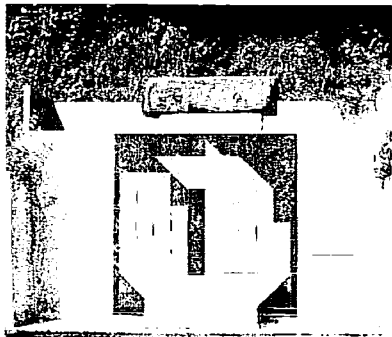


冲縄師範健児之塔
(糸満市字摩文仁)

県立第一中学校鉄血勤皇隊・通信隊

入隊学徒二八六名中二六六名戦死

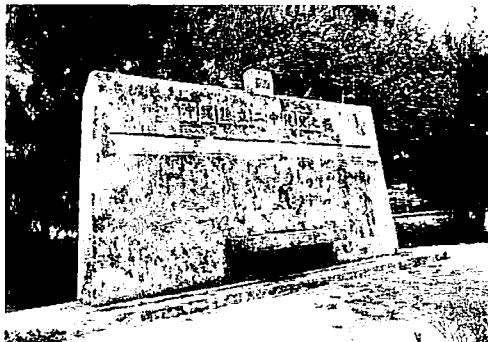
職員二〇名戦死



一中健児之塔
(那覇市首里金城町)

県立第二中学校鉄血勤皇隊・通信隊

入隊学徒二八一名中一七八名戦死

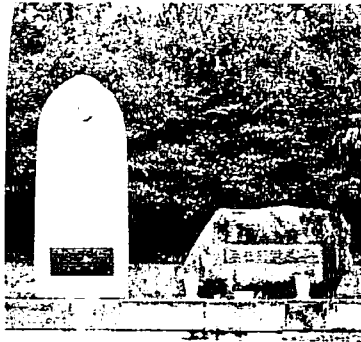


冲縄県立二中健児之塔
(那覇市奥武山町)

県立第三中学校鉄血勤皇隊・通信隊

入隊学徒六二名中五四名戦死

職員三名戦死



三中学徒之碑
(本部町字並里)



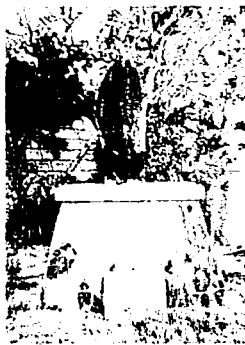
農林健児之塔
(嘉手納町字嘉手納)

県立農林学校鉄血勳皇隊
入隊学徒九三名中七一名戦死



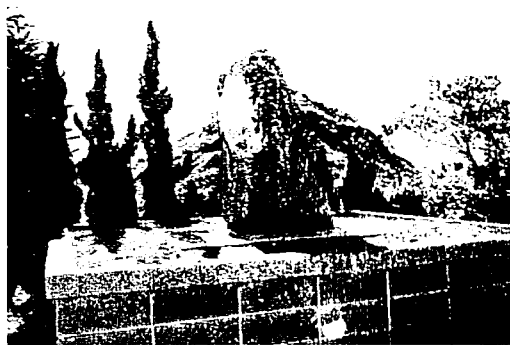
沖縄工業健児之塔
(糸満市字摩文仁)

県立工業学校鉄血勳皇隊・通信隊
入隊学徒一三〇名中一〇九名戦死



和魂〈那覇商業学校〉
(那覇市松山)

那覇市立商業学校鉄血勳皇隊・通信隊
入隊学徒一〇八名中九五名戦死



翔洋〈県立水産学校〉
(糸満市字西崎)

県立水産学校鉄血勳皇隊・通信隊
入隊学徒四五名中二九名戦死
職員八名戦死



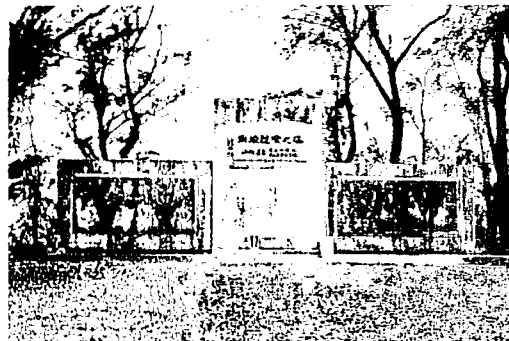
ひめゆりの塔〈県立一高女、女子師範〉
(糸満市字伊原)

沖縄師範学校女子部
県立第一高等女学校 ひめゆり学徒隊
入隊学徒一四八名中一二七名戦死



開南健児之塔〈私立開南中学校〉
(糸満市字米須)

私立開南中学校鉄血勳皇隊・通信隊
入隊学徒三〇名中二五九名戦死



南燈慰靈之塔〈三中・三高女〉
(名護市名座喜原)

県立第三高等女学校 名護蘭部隊
(不明)

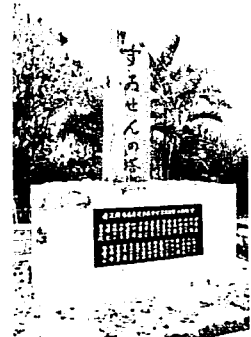


白梅之塔〈県立二高女〉
(糸満市字国吉)

県立第二高等女学校 白梅学徒隊
入隊学徒四六名中三五名戦死
職員一名戦死

県立首里高等女学校 瑞泉学徒隊

入隊学徒六〇名中五二名戦死



ずんせんの塔〈県立首里高女〉
(糸満市字米須)

私立積徳高等女学校 積徳学徒隊

入隊学徒四一名三二名戦死

職員五名戦死



積徳高等女学校慰霊之碑
(那覇市松山)

昭和高等女学校 梯梧学徒隊

入隊学徒六八名中五五名戦死



梯梧之塔〈昭和高女〉
(糸満市字伊原)

以上昭和六十一年調査

(集計) 入隊者 男155 女363 計518

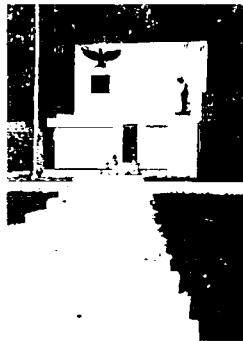
戦死 男155 女301 計456

慰霊碑と所在地は

那覇出版社発行写真集に依る

小桜の塔

対馬丸で遭難した学童達の慰霊塔



小桜の塔
(那覇市若狭)

那覇市若狭



沖縄県護国神社 那覇市奥武山町
沖縄戦戦死者175957柱を記る

殉国沖縄学徒顕彰会に参列して

皆本 義博

鬼神も泣かしむる学徒の健闘に涙して感動した。

昭和十九年、沖縄師範学校長野田真

雄先生は、文部省の会議に列席したが、沖繩へ帰任の方途なく、他への補職を示されるや、校長はただひとり歩いて市ヶ谷の陸軍省に赴き、嘆願し陸軍の爆撃機に便乗し帰任した、六月二十日頃・教え子の鉄血勳皇隊の南部島尻への出発を見送り、校舎の焼け跡で自決された。

沖縄戦没者永代神楽祭

皆本 義博

六月二十二日、靖国神社で、沖縄戦戦没者合同の永代祭が催され、牛島満大將家のご家族の中に列した。

牛島將軍は二・二六事件後、第一師団が北滿駐劄に出るとき、他への補職が変更され、とくに歩兵第一聯隊長に補され、また大東亜戦終局の決戦が予想された沖繩第三十二軍司令官に親補された。

沖繩戦に従軍した海兵隊戦史家ビーニス・フランクは、「状況が悪くなり窮乏に落ち込んだ時、牛島將軍の部隊がなお最後の勝利を信じて戦ったことは、深く根ざした伝統・強い訓練と奉仕の精神に基くもので、米国人には理解し難いものがあった」と記している。



少飛会
海法秀一画

在りし日の学徒達

金城 和彦 著

「嗚呼沖縄戦の学徒隊」より

み国にあらし迫りきて 奮いて起てり 学徒隊
まなびの庭に別れして 隊伍の列に入らんとす

沖縄戦没学徒に捧げる歌



県立第一中学の生徒達が、鉄血勳皇隊を編成して和田中将麾下に入隊したとき、九九式歩兵銃が支給されたが、不足分は学校教練用三八式銃を使用した。写真は、銃の手入れをする健児たち。

我育みし たらちねよ むつみ育ちし 同胞よ
尽きぬ名残を断切りて 我は征くなり修羅の道
担える銃の 重くして いずくか見ゆる幼な顔
花は蕾の をとめらの こころの色は 赤十字



積徳高等女学校は第二四師団第二野戦病院に配属された。爾來、言語に絶する苦難の中に、負傷兵を一心に看護し続けたが、6月中旬、温情溢れる病院長小池少佐が自刃され、また、生徒たちもそのほとんどが散垂した。この写真は、健やかなりし同校生徒の、在りし日の面影である。

激しき砲火くぐりぬけ まなじり決し 突入す
傷つく戦士いたわりて 衣の袖は あけにそむ
祖霊まします我が郷土 死もて護りし 学徒隊
語り伝うるいしぶみに 思いは深し のちの人

沖繩慰靈の日に因んで

六月二十三日が沖繩慰靈の日と定められているのは、この日牛島軍司令官と長参謀長が自決し、名実共に沖繩の組織的戦闘が終焉したことに依るものである。

軍司令部のその場の模様を西野弘二著「紅焰」より引用してみよう。

木村、三宅、葉丸、長野の各参謀は遊撃戦の実行、或いは大本営に報告という事で、軍司令官の命令を貰い、十九日の夜それぞれ住民の服装で万感こめて摩文仁の壕を去って行った。八原高級参謀は将軍自決の後出撃ということであった。私も同様の命令を貰った。

(註) 西野少佐は飛行場設定の特技者として司令部付になったが、その用がなくなつてからは八原参謀の補助者となつていた。住民の服装で脱出したが、三日後敵の検問で見破れ捕虜となり生残つた。既に故人)

(二十三日) 摩文仁山は白々と明け染めかけた。時は今だ。

海岸側の出口から斬込み隊は躍り出た。神々の出発だ。嗚呼、帰らぬ神。副官の持つローソクの灯を先頭に、淡々たる軍司令官、豪傑魁偉の参謀長と統

かれる。参謀長は上衣を脱いだままだ。白いワイシャツの背には「義勇奉公

忠則尽命」陸軍中將長勇と血書されてゐる。両將軍は海岸側、壕の出口付近の断崖の上に介錯役の副官、剣道五段の坂口大尉が付添い、台上に静座された。遙か東天を揮する將軍達の頭上には、かすかに紅を含んだ飛雲が流れ走る。朝霧が谷より萌え上がった。残月は未だ天空を支配するかのようには暁天にかかつてゐる。

自刃だ。手元を定めた副官の振りあげた手練の白刃は、神業のように宙を切つて將軍の頭をはねた。旭日が倒れた將軍達を静かに照らし始めた。武士の掟を守り、敗れた戦に責めのおかしをたてられた。

ひと時過ぎた。静かな壕の中で突如、拳銃、手榴弾の爆発音が闇をついた。將軍を葬つた四人の副官達は軍装に身を固め、拳銃で相い向かつたまま、その他の人達は手榴弾や拳銃で自決し果てた。鮮血は床に流れ、脾肉はとび散る。



洞窟の傍に建っている

4月の靖国神社々頭の掲示

社頭の掲示板には左記の通り特攻隊員の遺書が出ており、見つめている人が少なかつた。

服部二飛曹についてつけ加えれば、甲飛12期 大正15年生まれ 天山に搭乗 鹿屋出撃

兄は櫻の木に咲いて居る

海軍少尉 服部 壽宗 命
神風特別攻撃隊「菊水部隊終天櫻隊」
昭和二十年四月十六日
南西緒島方面にて戦死
三重県出身



節子殿
兄は神風特別攻撃隊の一員として明日敵艦と共に、我が愛機雷撃機天山に特攻用爆弾を抱きて命中、男一匹玉と砕け散るのだ、最後にのぞみ一筆書遣し置くことあり。

節子も今では立派な可愛い女学生となつたことであらう。兄は節子の女学生姿が見られずに死んで行くのが残念だ。節子も光輝ある服部家の一女子だ。兄の一人ぐらゐるが死んだとて何も悲しみなげく事はない。兄は喜んで天皇陛下の爲め、重大危機に直面して居る日本の爲め、一億國民の楯となつて散つて行くのだ。少しも悲しまずに笑つて兄の塊を迎へて呉れ。(中略)

兄は常に九段の社の櫻の木に咲いて居る。裏の元屋敷の櫻の木にも咲きますよ。櫻が咲いたら兄だと思つて見て下さい。

さやうなら。母上を御願ひ致します。
出撃前夜 兄
親愛なる妹 節子殿

協会頒布図書のお知らせ

（附）特攻隊戦没者慰霊平和祈念協会

「特別攻撃隊」四版 396頁

目次

第一部 特別攻撃隊の戦闘

第一章 特殊潜航艇（甲標的・蛟龍）

第二章 陸軍航空特別攻撃隊

第三章 回天

第四章 地上戦闘における特攻

第五章 海上特別攻撃隊

第六章 待ちうける水中特攻

第二部 特別攻撃隊戦没者名簿

海軍の部

一、海軍航空特別攻撃隊

1、比島方面作戦

2、サイパン・硫黄島方面作戦

3、機動部隊との対戦

4、天一号作戦航空作戦

5、本土米襲機動部隊攻撃

二、特殊潜航艇（含む海龍）（特潜

碑合祀者名簿）

三、回天特別攻撃隊

1、回天作戦（潜水艦による）

2、回天作戦（前進基地による）

3、回天訓練による殉職者

四、震洋特別攻撃隊

陸軍の部

一、陸軍航空特別攻撃隊

1、比島方面

2、沖縄方面

3、南西方面

4、内地及び満州

二、義烈空挺隊

三、丹羽戦車特攻隊

四、陸軍海上挺進戦隊

第三部 顕彰簿

特別攻撃隊の顕、特攻隊展示室（靖

国神社遊就館）、特攻平和観音（世

田谷観音寺）、特攻隊戦没者慰霊塔

（鹿児島・鹿屋）以下、全国各地

（海外を含む）に在る特別攻撃隊関

連の慰霊碑、顕彰碑等88件の写真を

説明を付して説明してある。

頒価 一部 三、五〇〇円

B-29との戦い

164頁

目次

B-29の正体

B-29の基地に対する航空攻撃

成都に対する航空攻撃

マリアナに対する航空攻撃

B-29の基地に対する空挺作戦

航空部隊の本土防空作戦

B-29に対する体当たり戦闘

体当たりが正式戦法となつてから

関東地区

中部地区

西部地区

B-29体当たり戦死者

当協会公報「特攻」に、24回にわたつ

て連載された記事を、系統的に整理し

直して単行本化したもの。

頒価 一部 一、五〇〇円

愛は終わり無く

209頁

長い日々

119頁

生き残り特攻隊員の手記

吉武登志夫

目次

はじめに

一、軍偵乙種学生の訓練

二、命謀

三、比島へ前進

四、前進基地へ前進・出撃

五、ルソン島へ転進

六、台湾へ引上げ

昭和19年11月8日に銚子飛行場を出

発、比島へ向つた18名の石腸隊員の中

で、12月12日、出撃途中でグラマンF

6Fの攻撃を受けてセブ島沖に墜落、

重傷を負つたが奇跡的に海軍によつて

救出され、唯一の生き残り隊員である、

著者のまえがきより

小栗かえで

目次

第一章 形なけれど

1、幼き頃のこと

2、赤陵ヶ丘時代（中学校）

以下12篇

第二章 思い出草の数々

1、季節毎の思い

・ 風冷い早春の頃

・ 花の季節

・ 星の美しくなる頃

以下12篇

第三章 愛は終りなく

1、歳月を経て靖国神社へ

2、故人の母校を訪ねて

以下13篇

著者のまえがきより

教育も御空も共に国のため。

こんな言葉を残して空の防人となり、
沖繩の空に消えていった人よ！

五十年前のあの激しかった戦争で戦死したあの人は教育者になるために勉強したけれど、時代はそれを許さず学校を卒業すると直ぐ軍隊に入り、あつと言う間に戦闘機乗りになり、特別攻撃隊長に選ばれ、沖繩の空で散ってしまつた。

「俺が死んだら何も残らない。それがとても淋しい」と切ない言葉を遺している。一年間の手紙だけのお付合ひだったが、この短い期間に一人の女の一生を支配する程の心を持っていたあの人は、死を前にして最愛の者に遺したのも、それは何形とてはないけれど珠玉の様な愛が遺された。命がけて愛された自分は残りの生涯をその愛と切なかつた思い出を支えとして五十年を生きて来た。「何故死んだの」と叫びつづけながら。

その遺された珠玉の愛と大切な二人の思い出を拙い私の筆で綴つてあの人の霊に捧げることしよう。

☆第105振武隊 林 義則少尉 幹候 9
(階級は戦死時)

頒価 一部 二、〇〇〇円



第105振武隊 林義則少尉

特攻隊遺詠集

散華した若人への鎮魂の書

221頁

目次

- 第一部 航空特攻
 - 第一章 比島作戦
 - 第二章 沖繩作戦
 - 第二部 B29体当り特攻
 - 第三章 空挺特攻
 - 第四章 水上特攻
 - 第五部 水中特攻
 - 第一章 特殊潜航艇及び海竜
 - 第二章 回天
- 以上散華された特攻勇士の遺詠絶句、及び遺族並びに関係者の鎮魂詠歌27首が収録されている。

頒価 一部 二、〇〇〇円

以下3部は何れも協会編集による
特攻隊員の日記 68頁

頒価 一部 七〇〇円

遺書遺詠に偲ぶ特攻隊員の心情 56頁

頒価 一部 六〇〇円

戦没特攻隊員を偲ぶ歌 29頁

頒価 一部 三〇〇円

以上、頒布を希望される方は、協会事務局に、郵便、電話、FAX、Eメール、或はホームページで申し込んで下さい。現品と払込取扱票を送りますので、頒価と送料(一部300〜400円)を振込んで下さい。

協会事務局

一、住所

〒105-0011 港区虎の門3-1-618

第6森ビル5階

一、電話

〇三―三三三三―一〇九〇

一、FAX

〇三―三三三三―一五五六七

E-mail: mepruni@tokkotai.or.jp

URL: <http://www.tokkotai.or.jp>

特攻会報編集の主眼

占領下敵国により教育勅語は破棄せしめられ、憲法と共に日本弱体化を企てる教育基本法が制定せしめられた。これにより学校教育を始め諸々の施策が行はれた結果今や道義は頹廃し、愛国心は地を払うに至つた。靖国神社を蔑ろにする追悼施設を建てようとする企てが、政府要人の間にあるが、これらは戦後の教育に洗脳された徒輩に外ならない。新しい教育基本法が制定されようとしているが、戦後半世紀以上に亘り蝕まれた日本精神の正常化は、早急には望めない。

ここに於いて我々は、愛国心の極致である戦没特攻隊員の精神を世に宣揚することに精根を傾け、時弊矯正に資したいと念願している。このような主眼で年四回会報を発行しているので、意の在るところをお汲みとり願いたい。